

第3章 高齢者の生きがいと地域生活に関する調査

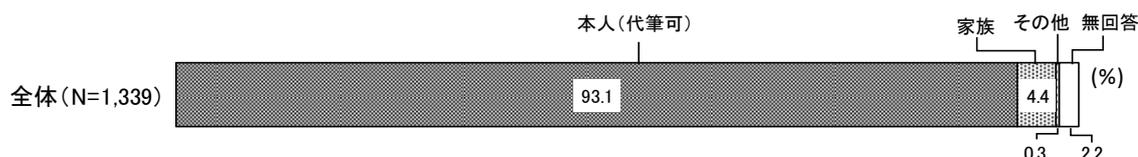
1 基本属性

(1) 回答者 (問1)

問1 この調査に回答していただく方はどなたですか。(1つに○)

- 回答者は「本人(代筆可)」が93.1%、「家族」が4.4%である。

図表 3-1 回答者 (全体)



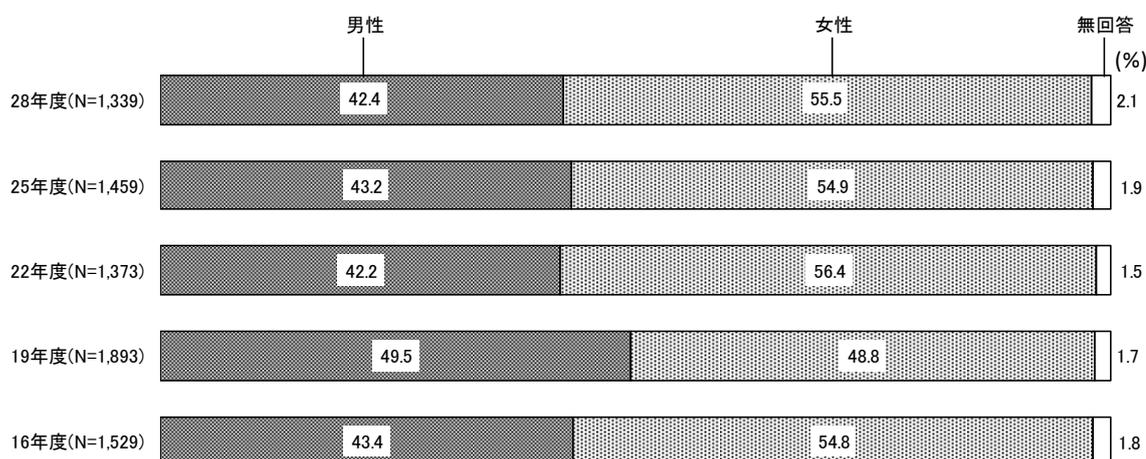
(2) 性別・年齢 (問2)

問2 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

また、平成28年10月1日現在の年齢をご記入ください。

- 性別は、男性が42.8%、女性が55.5%である。

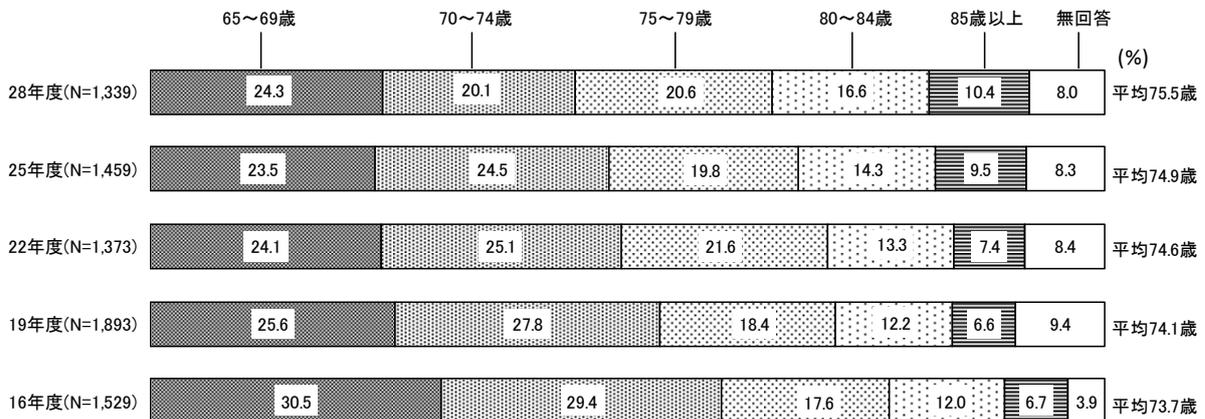
図表 3-2 性別 (全体)【経年比較】



Ⅱ アンケート調査の結果

- 年齢は、「65～69歳（24.3%）」が最も多くなっている。平均年齢は75.5歳である。
- 経年で比較すると、28年度の「85歳以上」は10.4%であり、16年度からの調査で初めて1割を超えている。平均年齢は、年度が進むごとに年齢が高くなっている。

図表 3-3 年齢（全体）【経年比較】

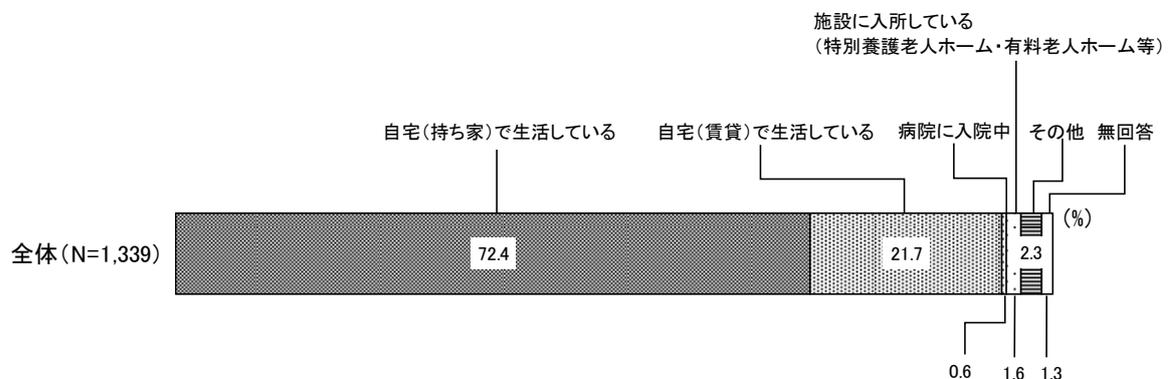


(3) 生活しているところ（問3）

問3 あなたは、現在どこで生活していますか。（1つに○）

- 経年で比較すると、生活しているところは、「自宅（持ち家）で生活している」が72.4%、「自宅（賃貸）で生活している」が21.7%、「施設に入所している（特別養護老人ホーム・有料老人ホーム等）」が1.6%、「病院に入院中」が0.6%である。「その他」は2.3%である。

図表 3-4 生活しているところ（全体）



(4) 家族構成 (問4)

問4 現在、あなたの世帯の家族構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

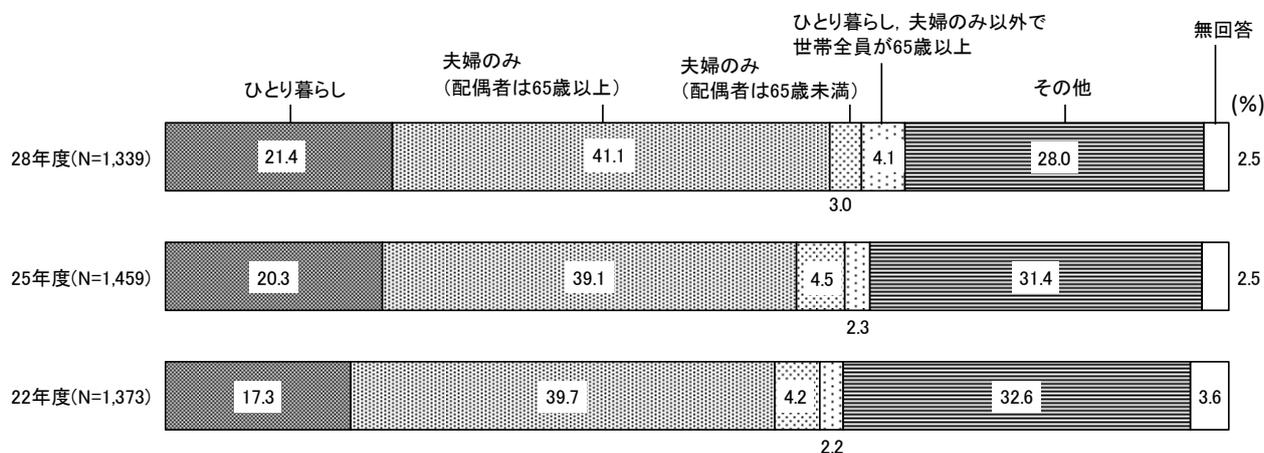
- 全体では、「夫婦のみ (配偶者は65歳以上)」が4割で最も多くなっている。
- 地域別にみると、北部地域では「ひとり暮らし」が全体より5.3ポイント低くなっている。

図表 3-5 家族構成 (全体, 地域別)

		(%)					
		ひとり暮らし	夫婦のみ (配偶者は65歳以上)	夫婦のみ (配偶者は65歳未満)	65歳以上で世帯全員 (3人以上)	上記以外 (1~4)	無回答
全 体	(N=1,339)	21.4	41.1	3.0	4.1	28.0	2.5
地域別	東部地域 (n= 269)	22.7	41.3	2.6	3.0	29.0	1.5
	西部地域 (n= 355)	22.0	37.7	3.1	5.1	31.3	0.8
	南部地域 (n= 340)	22.9	43.2	4.1	4.4	24.1	1.2
	北部地域 (n= 261)	16.1	43.3	3.1	5.0	31.8	0.8

- 経年で比較すると、28年度の「ひとり暮らし」は21.4%で、年度が進むごとに割合が高くなっている。

図表 3-6 家族構成 (全体) 【経年比較】



(5) 居住地 (問5)

問5 お住まいの地域はどこですか。記入例を参考に【町名】、【丁目】をご記入ください。

- 居住地は、西部地域 (26.5%) が最も多く、南部地域 (25.4%) が続いている。

図表 3-7 居住地 (全体)



※それぞれの地域の対応する町名・丁目及び小学校区は、7ページを参照

(6) 避難所などになっている小学校 (問5-1)

問5-1 お住まいの近くにある、避難所などになっている公立小学校はどれですか。

(1つに○)

- 住まいの近くの避難所などになっている公立小学校は、いずれかの小学校を答えた人は90.6%で、「分からない」は5.2%である。

図表 3-8 避難所などになっている小学校 (全体)

	東部地域				西部地域							
	緑ヶ丘小学校	若葉小学校	調和小学校	滝坂小学校	石原小学校	第三小学校	飛田給小学校	第一小学校	富士見台小学校	多摩川小学校		
全体 (N=1,339)	4.7	6.4	5.5	2.2	4.2	5.4	4.1	3.8	4.9	2.9		

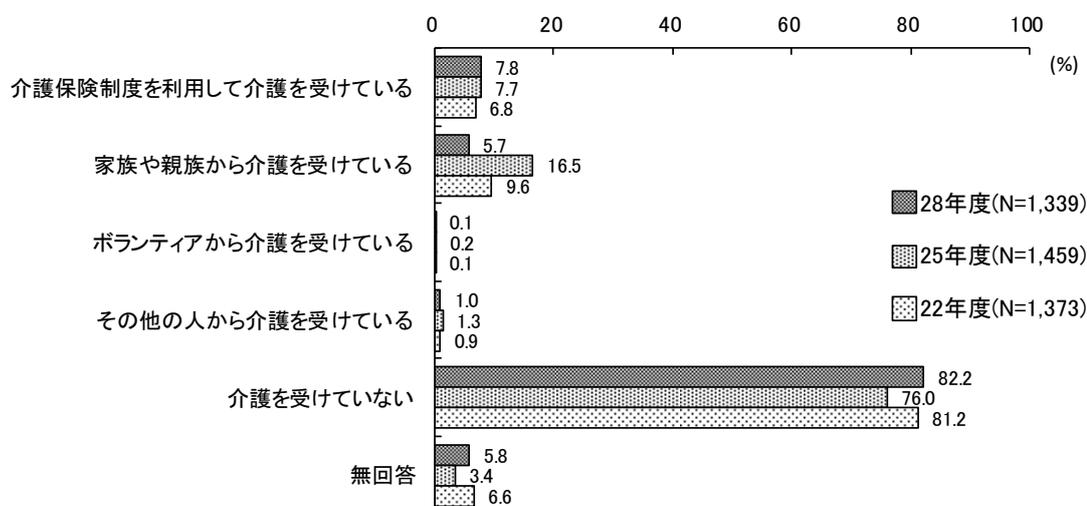
	南部地域				北部地域							
	八雲台小学校	国領小学校	布田小学校	杉森小学校	第二小学校	染地小学校	上ノ原小学校	深大寺小学校	北ノ台小学校	柏野小学校	分からない	
全体 (N=1,339)	4.8	6.3	3.4	5.0	3.0	4.1	7.1	4.4	5.3	3.0	5.2	4.2

(7) 介護の有無 (問6)

問6 あなたは現在、介護を受けていますか。(いくつでも○)

- 全体では、《介護を受けている》*が約1割となっている。
- 経年で比較すると、28年度の「介護を受けていない」は82.2%で、25年度と比べ6.2ポイント高くなっている。また、介護を受けている人では、28年度は「介護保険制度を利用して介護を受けている(7.8%)」が最も多いが、25年度までは「家族や親族から介護を受けている」が最も多い。

図表 3-9 介護の有無 (全体：複数回答)【経年比較】



*《介護を受けている》:「家族や親族から介護を受けている」、「介護保険制度を利用して介護を受けている」、「ボランティアから介護を受けている」、「その他の人から介護を受けている」のいずれかに回答した人

- 性・年代別にみると、《介護を受けている》の割合は、65～74歳では女性が男性より高くなっているが、75～84歳では男性の方が高くなっている。また、85歳以上になると、男性は4割、女性は約5割が介護を受けている。

図表 3-10 介護の有無 (全体, 性・年代別：複数回答)

		い受介 るけ護 てを	い受介 なけ護 いてを	無 回 答
全 体 (N=1, 339)		11.9	82.2	5.8
性・ 年 代 別	男性			
	65～74歳 (n= 269)	2.6	94.8	2.6
	75～84歳 (n= 204)	12.7	83.3	3.9
	85歳以上 (n= 35)	40.0	60.0	0.0
	女性			
	65～74歳 (n= 325)	5.5	88.9	5.5
75～84歳 (n= 289)	9.7	83.0	7.3	
85歳以上 (n= 104)	51.9	39.4	8.7	

(8) 主な介護者 (問6-1)

問6-1 問6で1と答えた方におたずねします。主な介護者はどなたですか。(1つに○)

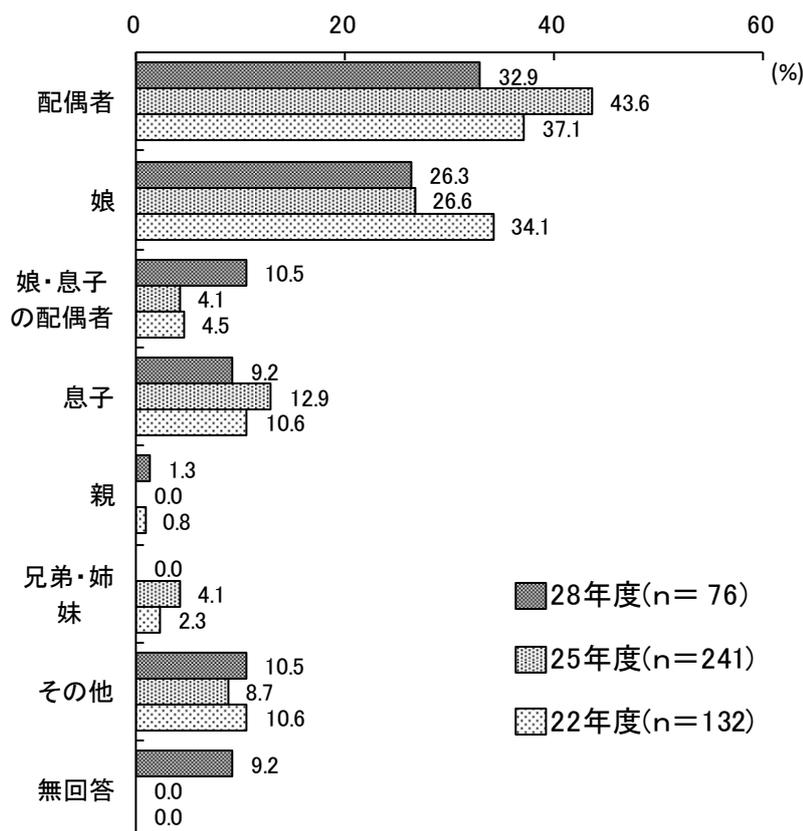
- 「家族や親族から介護を受けている」と回答した人に、その主な介護者をたずねたところ、全体では「配偶者 (32.9%)」が最も多く、「娘 (26.3%)」が続いている。
- 性別にみると、男性は「配偶者」が6割を超えている。一方、女性は、「娘 (34.0%)」が最も多く、「配偶者 (20.8%)」、「娘・息子の配偶者 (13.2%)」と続いている。

図表 3-11 主な介護者 (全体, 性別: 複数回答)
 <「家族や親族から介護を受けている」と回答した方>

		配偶者	娘	息子	娘・息子の配偶者	兄弟・姉妹	親	その他	無回答
全体 (n=76)		32.9	26.3	9.2	10.5	0.0	1.3	10.5	9.2
性別	男性 (n=22)	63.6	9.1	4.5	4.5	0.0	4.5	13.6	0.0
	女性 (n=53)	20.8	34.0	9.4	13.2	0.0	0.0	9.4	13.2

- 経年で比較すると、28年度は22年度・25年度と同様、「配偶者」が最も多く、「娘」が続いている。28年度の「配偶者」の割合は25年度と比べて10.7ポイント低くなっている。

図表 3-12 主な介護者 (全体: 複数回答) 【経年比較】
 <「家族や親族から介護を受けている」と回答した方>



(9) 介護が必要になったときに生活したい場所 (問6-2)

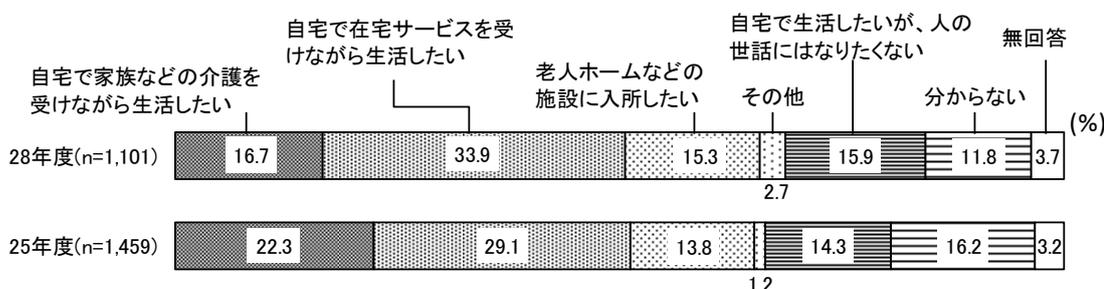
問6-2 問6で5と答えた方におたずねします。

あなたは、介護が必要になったとき、どこで生活したいと考えていますか。(1つに○)

- 「介護を受けていない」と回答した人に、介護が必要になったときにどこで生活したいかたずねたところ、全体では「自宅で在宅サービスを受けながら生活したい(33.9%)」が最も多く、「自宅で家族などの介護を受けながら生活したい(16.7%)」が続いており、介護が必要になっても《自宅で生活したい》※と66.5%が考えている。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と同様、「自宅で在宅サービスを受けながら生活したい」が最も多く、「自宅で家族などの介護を受けながら生活したい」が続いている。

図表3-13 介護が必要になったときに生活したい場所(全体)【経年比較】

<「介護を受けていない」と回答した人>



※《自宅で生活したい》:「自宅で家族などの介護を受けながら生活したい」,「自宅で在宅サービスを受けながら生活したい」,「自宅で生活したいが、人の世話にはなりたくない」の合計

2 近所づきあいの状況

(1) 近所づきあいの状況 (問7)

問7 あなたは、日ごろどのような近所づきあいをしていますか。(1つに○)

- 全体では、「立ち話をする程度のつきあいをしている(40.6%)」が最も多く、「あいさつをする程度のつきあいをしている(33.8%)」が続いている。
- 性別にみると、男性は「あいさつをする程度のつきあいをしている(44.7%)」が最も多いが、女性は「立ち話をする程度のつきあいをしている(45.5%)」が最も多くなっている。
- 地域別にみると、北部地域では「近所づきあいをしていない」が11.9%で、1割を超えている。

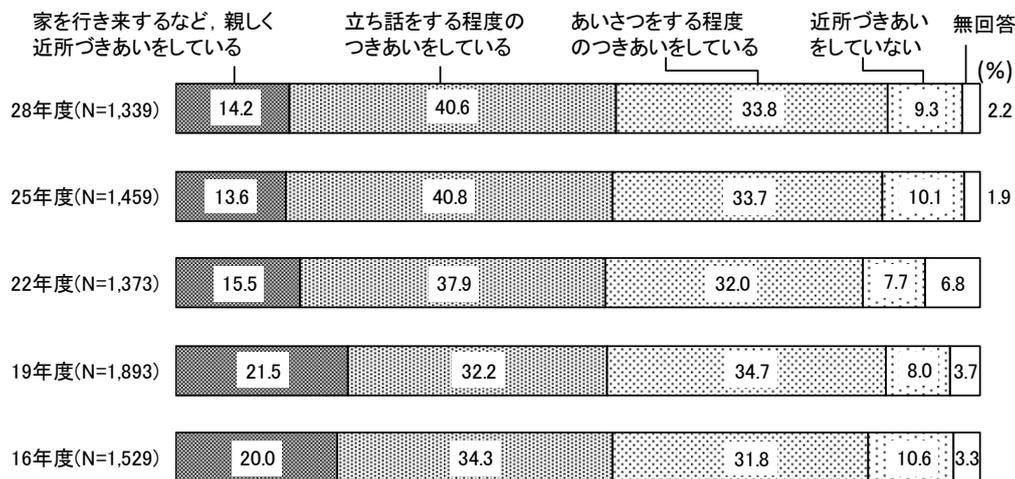
II アンケート調査の結果

図表 3-14 近所づきあいの状況（全体，性別，地域別） (%)

		きど家 あを い親 をし しく 来て 近す い所 るづ な	いのち るつ き話 あを いす るを し程 て度	て度あ いのい るつさ きつあ をいす るを し程	て近 い所 ないづ きあ いを し	無 回 答
全	体 (N=1,339)	14.2	40.6	33.8	9.3	2.2
性 別	男性 (n= 568)	9.2	34.5	44.7	10.6	1.1
	女性 (n= 743)	18.3	45.5	26.0	8.3	1.9
地 域 別	東部地域 (n= 269)	16.7	42.0	32.0	7.4	1.9
	西部地域 (n= 355)	16.1	38.3	36.1	8.5	1.1
	南部地域 (n= 340)	11.8	40.9	37.1	9.7	0.6
	北部地域 (n= 261)	12.6	41.8	31.8	11.9	1.9

- 経年で比較すると、28年度は22年度・25年度と同様、「立ち話をする程度のつきあいをしている」が最も多く、「あいさつをする程度のつきあいをしている」が続いている。

図表 3-15 近所づきあいの状況（全体）【経年比較】



(2) 近所づきあいをしていない理由（問7-1）

問7-1 近所づきあいをしていない主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 「近所づきあいをしていない」と回答した人にその理由をたずねたところ、全体では「普段つきあう機会がないから」が4割台で最も多くなっている。
- 年代別にみると、65～74歳では「仕事や家事などで忙しく時間がないから」が26.2%で、全体より8.5ポイント高くなっており、4人に1人の割合となっている。

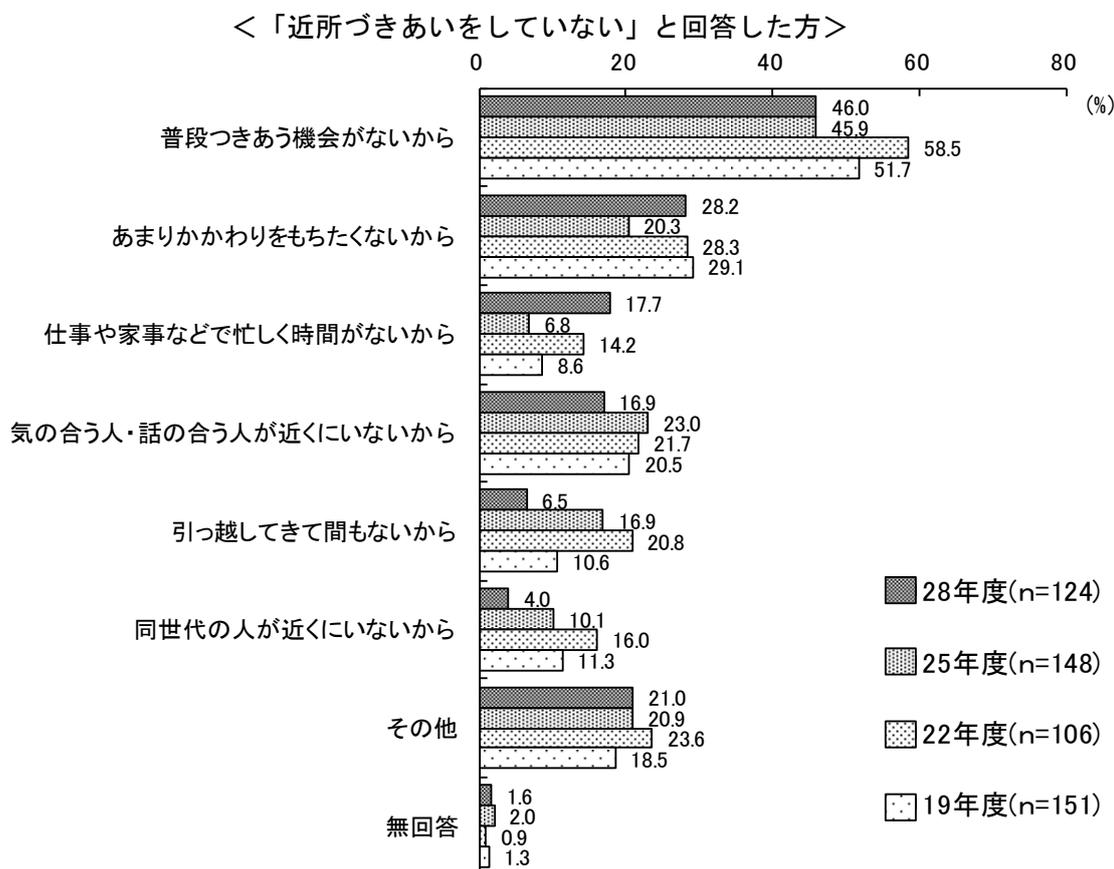
図表 3-16 近所づきあいをしていない理由（全体，年代別：複数回答）

＜「近所づきあいをしていない」と回答した方＞

		なで仕 い忙 かし や ら く 家 時 事 間 な が ど	間引 もつ な越 いし か て ら き て	会普 が段 な き か あ ら う 機	く同 に世 い代 な の い 人 か が ら 近	にの気 い合 なう 合 い 人 か が ら 近 く 話	かをあ らも ちり た か か な わ い り	そ の 他	無 回 答
全	体 (n=124)	17.7	6.5	46.0	4.0	16.9	28.2	21.0	1.6
年 代 別	65～74歳 (n=65)	26.2	7.7	55.4	4.6	20.0	24.6	12.3	0.0
	75～84歳 (n=30)	13.3	10.0	43.3	6.7	13.3	40.0	16.7	0.0
	85歳以上 (n=23)	0.0	0.0	13.0	0.0	13.0	21.7	56.5	8.7

- 経年で比較すると、28年度は19年度から25年度までと同様、「普段つきあう機会がないから」が最も多くなっている。
- また、28年度は25年度に比べて、「仕事や家事などで忙しく時間がないから」は10.9ポイント、「あまりかかわりをもたたくないから」は7.9ポイント高くなっている。

図表 3-17 近所づきあいをしていない理由（全体：複数回答）【経年比較】



3 日ごろの悩みと相談

(1) 地域の暮らしの中での不安や課題（問8）

問 8 あなたは、地域での暮らしの中で、不安や課題と感ずることがありますか。身近に感ずる不安や課題をお答えください。（いくつでも○）

- 全体では、「健康のこと」が6割で最も多く、「老後の生活のこと」が4割、「災害時のこと」と「介護のこと」が3割台が続いている。
- 性・年代別にみると、男性・65～74歳では「仕事のこと」が1割、女性・65～74歳では「災害時のこと」が4割で、全体より高くなっている。また、「健康のこと」は、男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっている。「災害時のこと」は、すべての年代で女性が男性を上回っている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしの人は「孤立死のこと」が2割台で、全体と比べて16.6ポイント高くなっている。
- 地域別にみると、東部地域は「住まいや住宅のこと」が2割で、全体より7.1ポイント高くなっている。

II アンケート調査の結果

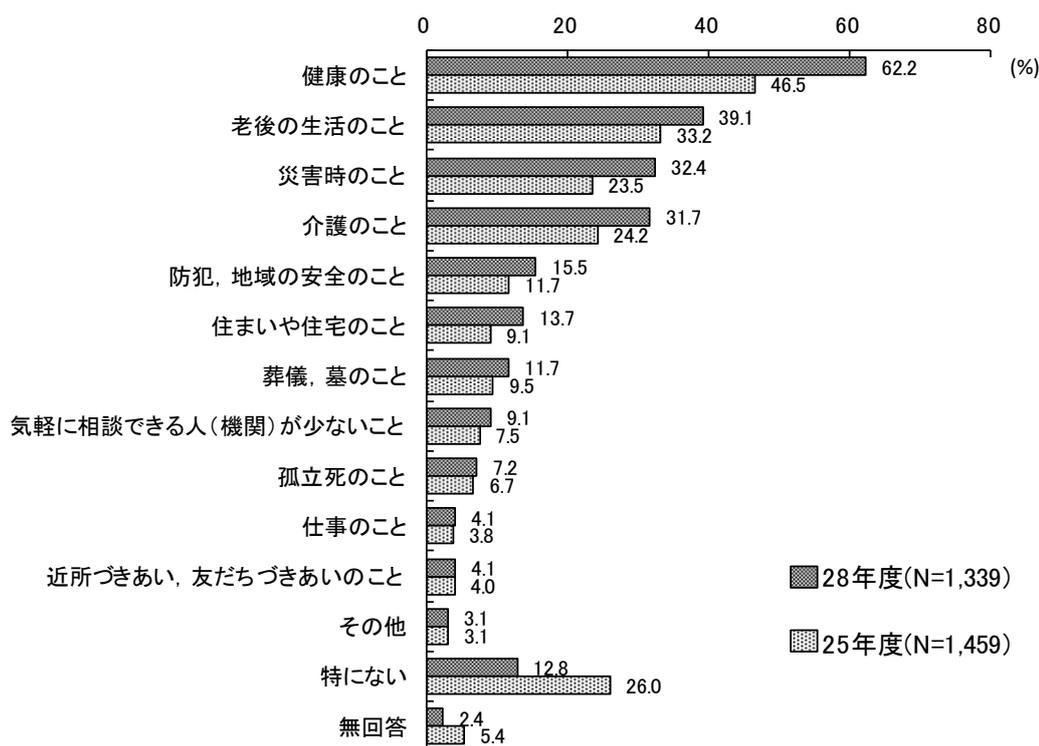
図表 3-18 地域の暮らしの中での不安や課題
(全体, 性・年代別, 家族構成別, 地域別 : 複数回答)

			健康のこと	介護のこと	と老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	の友だちづきあい、近所づきあい、のこと	防犯、地域の安
全 体		(N=1, 339)	62.2	31.7	39.1	13.7	4.1	4.1	15.5
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	58.4	22.7	43.9	16.7	11.9	2.6	11.9
		75～84歳 (n= 204)	69.1	35.3	32.4	12.7	3.4	6.4	19.1
		85歳以上 (n= 35)	74.3	20.0	22.9	2.9	0.0	0.0	5.7
	女性	65～74歳 (n= 325)	59.4	33.2	49.2	16.6	4.0	3.4	16.0
		75～84歳 (n= 289)	64.0	34.3	37.7	12.1	0.7	4.8	17.6
		85歳以上 (n= 104)	65.4	40.4	27.9	11.5	0.0	2.9	19.2
家族構成別	ひとり暮らし (n= 286)	63.6	29.7	39.9	19.2	5.2	5.9	15.7	
	その他 (n=1, 020)	62.5	32.7	39.5	12.5	3.8	3.5	15.4	
地域別	東部地域 (n= 269)	61.3	33.1	41.6	20.8	3.7	2.6	18.2	
	西部地域 (n= 355)	61.1	30.4	33.0	11.8	5.4	4.5	12.4	
	南部地域 (n= 340)	66.8	34.1	44.4	15.9	3.8	5.3	14.7	
	北部地域 (n= 261)	60.5	30.3	40.6	8.8	4.6	4.2	17.6	

			孤立死のこと	災害時のこと	少ない(相談できない)こと	葬儀、墓のこと	その他	特にな	無回答
全 体		(N=1, 339)	7.2	32.4	9.1	11.7	3.1	12.8	2.4
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	6.3	24.9	8.6	13.8	3.3	11.9	1.5
		75～84歳 (n= 204)	6.4	32.4	6.9	10.3	2.5	10.3	2.0
		85歳以上 (n= 35)	5.7	22.9	8.6	5.7	0.0	8.6	8.6
	女性	65～74歳 (n= 325)	7.1	40.0	12.0	14.8	4.0	13.8	0.6
		75～84歳 (n= 289)	9.0	33.2	7.6	9.0	3.1	14.9	1.0
		85歳以上 (n= 104)	9.6	31.7	9.6	5.8	1.9	12.5	4.8
家族構成別	ひとり暮らし (n= 286)	23.8	32.5	13.3	7.3	3.1	10.8	1.0	
	その他 (n=1, 020)	2.7	32.6	7.8	12.9	3.1	13.6	1.9	
地域別	東部地域 (n= 269)	7.1	36.8	8.6	11.5	3.3	10.4	1.9	
	西部地域 (n= 355)	7.9	31.5	9.0	11.0	3.7	14.9	1.4	
	南部地域 (n= 340)	8.8	33.5	8.2	14.1	3.2	11.2	0.9	
	北部地域 (n= 261)	5.7	31.4	11.9	10.0	2.3	15.3	2.7	

- 経年で比較すると、28年度は、すべての項目で25年度と比べて割合が高くなっており、それぞれ、「健康のこと」が15.7ポイント、「災害時のこと」が8.9ポイント、「介護のこと」が7.5ポイント高くなっている。
- また、28年度の「特にな」は25年度と比べて13.2ポイント低くなっており、悩みを持つ人が増えていることが分かる。

図表 3-19 地域の暮らしの中での不安や課題（全体：複数回答）【経年比較】

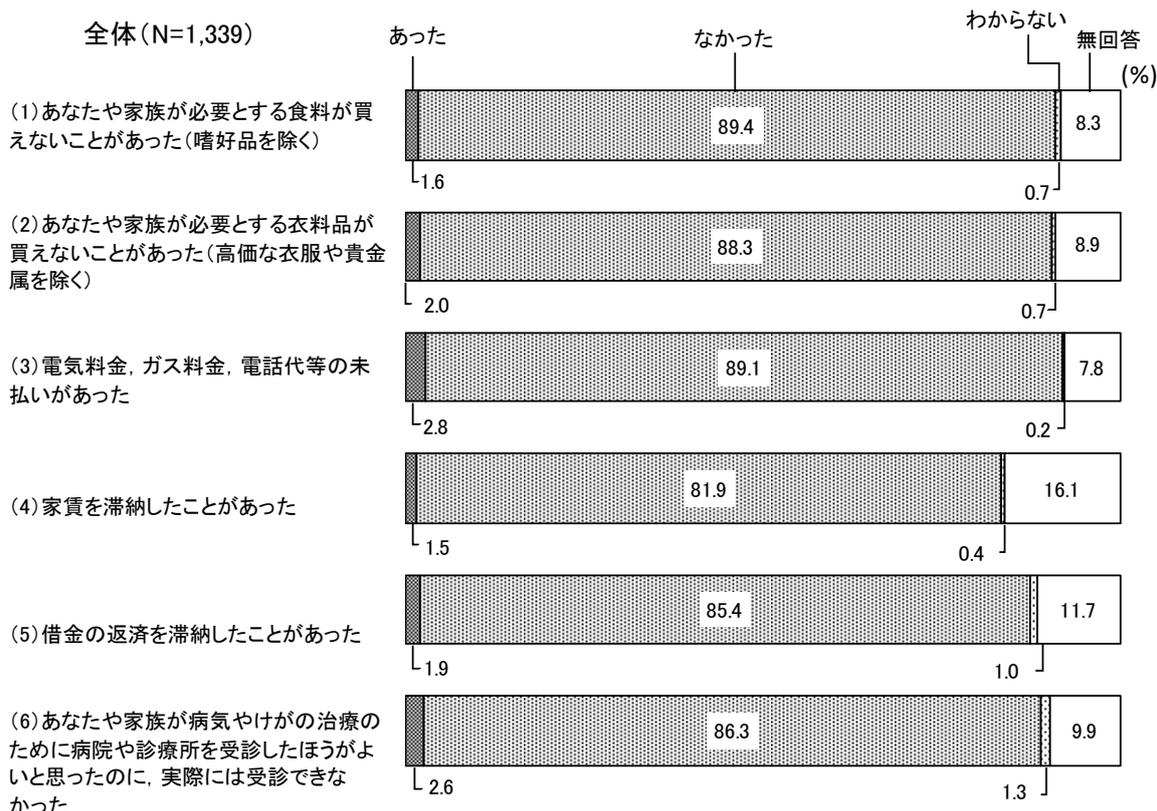


(2) 経済的な理由で困った経験の有無（問9）

問9 あなたは、過去1年間の間に、経済的な理由で次のような経験がありましたか。

○ 全体では、「あった」はいずれの項目でも3%未満となっている。

図表 3-20 経済的な理由で困った経験の有無（全体）



II アンケート調査の結果

- 全体では、《経済的困窮の経験あり》※は6.9%である。
- 性・年代別にみると、男性・65～74歳は《経済的困窮の経験あり》が1割となっている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしの人は《経済的困窮の経験あり》が1割を超えている。
- 地域別にみると、東部地域は《経済的困窮の経験あり》が8.2%で、4地域中で最も高くなっている。

図表 3-21 経済的な理由で困った経験の有無（全体、性・年代別、家族構成別、地域別）

			(%)		
			あ窮経 りの済 経的 験困	な窮経 しの済 経的 験困	無 回 答
全 体 (N=1,339)			6.9	93.1	0.0
性・ 年代 別	男 性	65～74歳 (n= 269)	10.0	90.0	0.0
		75～84歳 (n= 204)	6.4	93.6	0.0
		85歳以上 (n= 35)	2.9	97.1	0.0
	女 性	65～74歳 (n= 325)	4.9	95.1	0.0
		75～84歳 (n= 289)	6.6	93.4	0.0
		85歳以上 (n= 104)	5.8	94.2	0.0
家族構成別	ひとり暮らし (n= 286)	10.5	89.5	0.0	
	その他 (n=1,020)	5.7	94.3	0.0	
地 域 別	東部地域 (n= 269)	8.2	91.8	0.0	
	西部地域 (n= 355)	7.6	92.4	0.0	
	南部地域 (n= 340)	5.6	94.4	0.0	
	北部地域 (n= 261)	6.1	93.9	0.0	

※ 《経済的困窮の経験あり》：問9の6項目でひとつでも「あった」に回答した人
《経済的困窮の経験なし》：問9の6項目ですべて「なかった」に回答した人

(3) 困ったときの身近な相談相手（人・機関）（問10）

問10 あなたが、日常生活の中で困ったとき、主に相談できる人・機関は次のうちどれですか。（いくつでも○）

- 身近な相談できる人・機関は、全体では「同居の家族（64.2%）」が最も多く、「別居の家族や親戚（53.2%）」、「友人・知人（30.0%）」と続いている。
- 性・年代別にみると、男性・65～74歳は「同居の家族」が7割台、男性・75～84歳は「かかりつけ医や保健師などの医療関係者」が3割、女性・65～74歳は「友人・知人」が4割台であり、全体より高くなっている。また、女性・85歳以上では4人に1人が「ケアマネジャー・ヘルパーなどの事業者」と答えている。
- 地域別にみると、東部地域は「地域包括支援センター」が14.9%で、全体と比べて6.0ポイント高くなっている。
- 経済的困窮の経験別にみると、《経験あり》は「身近に相談できる人・機関はない」が7.5%で、全体と比べて5.6ポイント高くなっている。

図表 3-22 困ったときの身近な相談相手（人・機関）

（全体、性・年代別、地域別、経済的困窮の経験別：複数回答）

		同居の家族	別居の親戚の家族	自治会や近所の人	友人・知人	民生委員・児童委員	地域福祉センター	事業者などへの相談	ケアマネジャー・ヘルパーなど	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	(%)
全体	(N=1,339)	64.2	53.2	6.6	30.0	2.3	1.6	8.1	20.5		
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	74.3	40.5	5.6	27.5	0.0	1.9	4.1	14.5	
		75～84歳 (n= 204)	67.2	52.5	5.4	21.1	4.4	0.5	7.4	30.4	
		85歳以上 (n= 35)	68.6	48.6	8.6	2.9	2.9	0.0	14.3	28.6	
	女性	65～74歳 (n= 325)	68.3	63.7	4.3	42.8	0.9	1.2	5.5	16.0	
		75～84歳 (n= 289)	54.0	55.7	10.0	37.4	4.5	2.1	8.7	24.2	
		85歳以上 (n= 104)	47.1	59.6	6.7	14.4	3.8	3.8	26.0	25.0	
地域別	東部地域 (n= 269)	62.8	56.9	8.9	31.6	1.5	1.1	5.9	21.2		
	西部地域 (n= 355)	64.5	51.5	5.6	25.9	3.7	1.1	7.6	19.4		
	南部地域 (n= 340)	63.2	52.4	9.7	32.1	2.9	2.4	9.4	19.4		
	北部地域 (n= 261)	73.2	58.2	4.2	32.6	1.1	1.5	8.0	24.1		
経済的困窮の経験別	経験あり (n= 93)	46.2	41.9	3.2	29.0	1.1	3.2	11.8	17.2		
	経験なし (n=1,246)	65.6	54.1	6.9	30.1	2.4	1.4	7.8	20.7		

		市役所	社会福祉協議会	地域包括支援センター	サポートセンター	その他	身近な人への相談	無回答	
全体	(N=1,339)	12.6	3.6	8.9	0.7	2.3	1.9	2.8	
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	16.0	3.7	3.7	0.7	1.5	3.0	1.5
		75～84歳 (n= 204)	17.2	6.9	12.3	1.0	2.0	2.5	2.9
		85歳以上 (n= 35)	8.6	2.9	8.6	0.0	0.0	2.9	2.9
	女性	65～74歳 (n= 325)	12.3	2.2	7.1	0.6	2.5	1.8	0.9
		75～84歳 (n= 289)	10.4	3.5	12.5	0.3	2.8	0.3	3.1
		85歳以上 (n= 104)	4.8	1.9	14.4	0.0	4.8	0.0	2.9
地域別	東部地域 (n= 269)	10.8	3.7	14.9	0.7	1.5	0.7	1.5	
	西部地域 (n= 355)	14.1	4.2	5.9	0.6	3.9	2.8	2.0	
	南部地域 (n= 340)	14.4	3.8	9.7	1.2	2.6	1.8	2.4	
	北部地域 (n= 261)	12.6	1.9	8.4	0.4	1.5	1.9	1.1	
経済的困窮の経験別	経験あり (n= 93)	16.1	5.4	6.5	0.0	4.3	7.5	3.2	
	経験なし (n=1,246)	12.4	3.5	9.1	0.7	2.2	1.4	2.7	

4 地域活動等の状況

(1) 地域活動・ボランティア活動への興味・関心の有無，取組状況（問11）

問11 調布市では，さまざまな地域活動・ボランティア活動が行われています。

①次のような地域活動・ボランティア活動について，あなたは興味・関心がありますか。

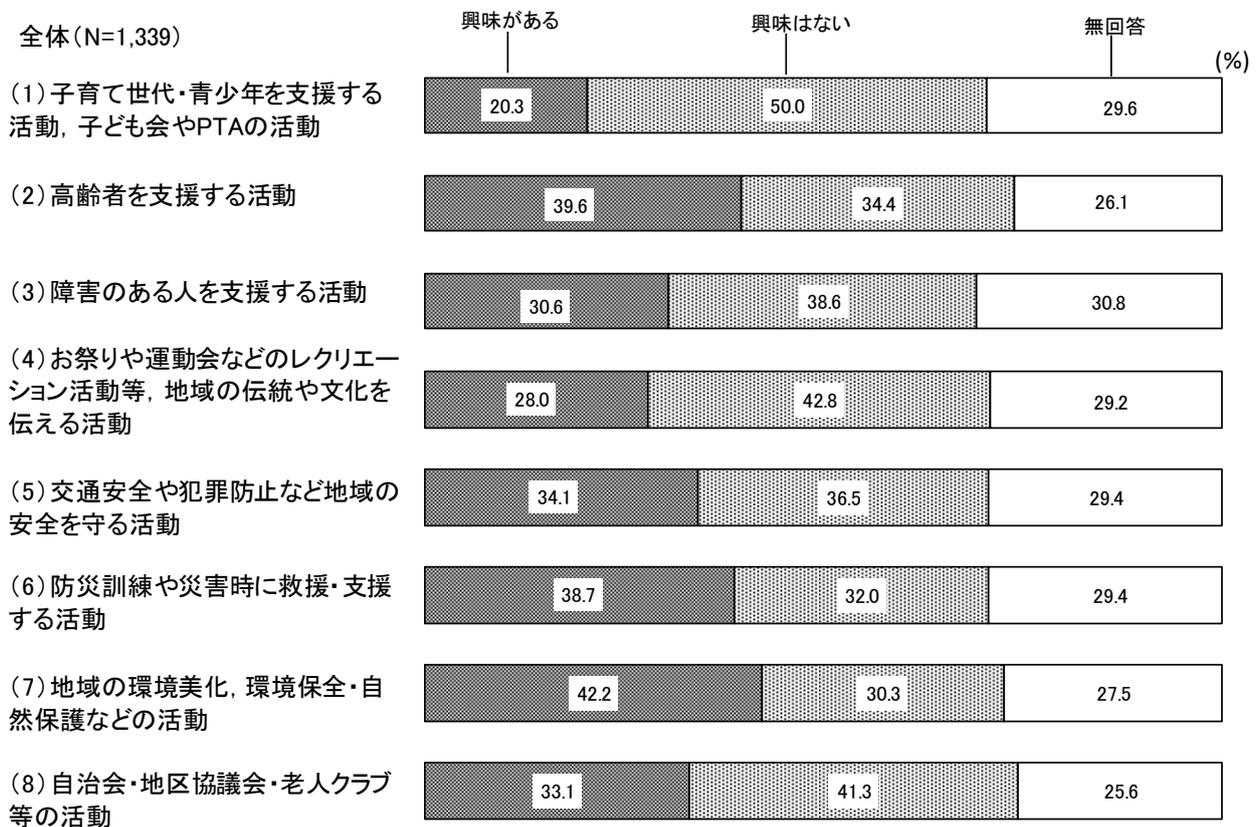
②現在，次のような地域活動・ボランティア活動にあなたは取り組んでいますか。

(1)～(8)について，①と②のそれぞれ1つに○をつけてください。

① 地域活動・ボランティア活動への興味・関心の有無

- 「興味がある」の割合は、『地域の環境美化，環境保全・自然保護などの活動（42.2%）』が最も多く，『高齢者を支援する活動（39.6%）』，『防災訓練や災害時に救援・支援をする（38.7%）』が続いている。

図表 3-23 地域活動・ボランティア活動への興味・関心の有無（全体）



- 「興味がある」の割合を地域別にみると，西部地域と南部地域では，すべての活動について「興味がある」の割合が全体より高くなっている。また，北部地域では，8項目中6項目で，全体より「興味がある」の割合が低くなっている。

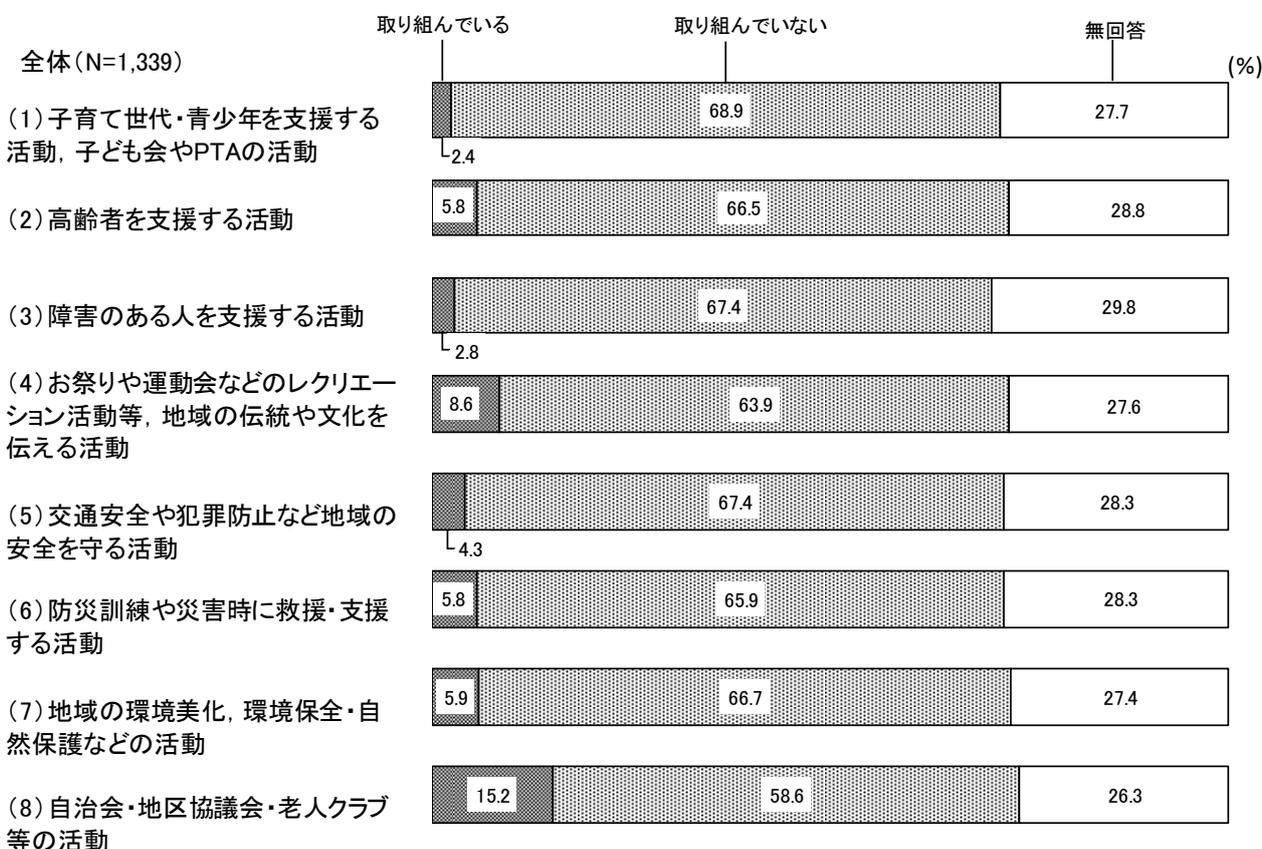
図表 3-24 地域活動・ボランティア活動への興味・関心の有無
(全体, 地域別) <「興味がある」の割合>

		(%)							
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
		子育て世代・青少年を支援する活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動等、地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全や犯罪防止など地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援する活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動
全 体	(N=1,339)	20.3	39.6	30.6	28.0	34.1	38.7	42.2	33.1
地域別	東部地域 (n= 269)	17.5	41.6	29.0	24.5	34.9	40.5	42.0	30.5
	西部地域 (n= 355)	21.1	39.7	31.0	31.3	34.9	40.8	43.4	35.2
	南部地域 (n= 340)	22.4	45.0	35.9	30.0	39.1	43.2	45.9	37.4
	北部地域 (n= 261)	20.7	34.5	28.7	29.1	30.7	34.5	41.4	31.8

② 地域活動・ボランティア活動への取組状況

- 取組状況で「取り組んでいる」活動は、『自治会・地区協議会・老人クラブ (15.2%)』が最も多く、『祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動 (8.6%)』、『地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動 (5.9%)』が続いている。

図表 3-25 地域活動・ボランティア活動への取組状況 (全体)



II アンケート調査の結果

○ 「取り組んでいる」の割合を地域別にみると、すべての地域で『自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動』が最も多くなっている。

図表 3-26 地域活動・ボランティア活動への取組状況（全体，地域別）＜「取り組んでいる」の割合＞

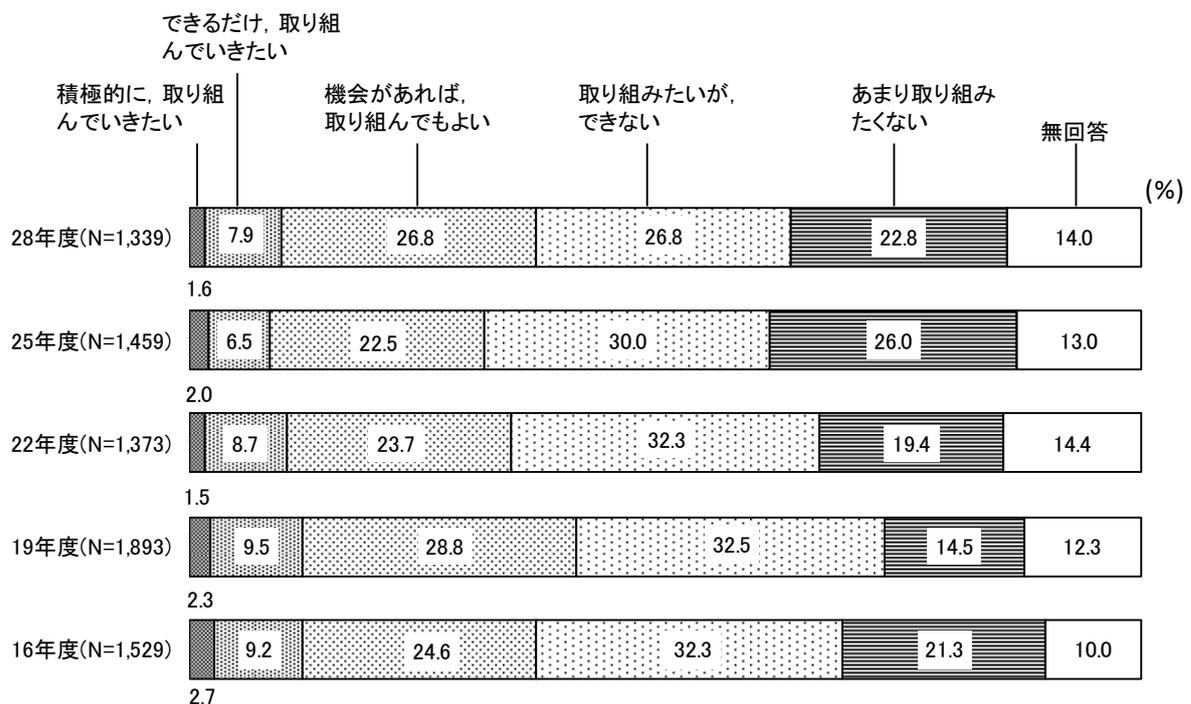
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
		会支子 や援育 Pすて Tる世 A活帯 の動・青 活少 動子 も年 をを	高 齢 者 を 支 援 す る 活 動	障 害 の あ る 人 を 支 援 す	を動レ 伝クお え地リ る域エ 活の活 動の伝 や統 文や 化活 の	動ど交 地通 域安 の全 安や 全犯 を罪 守防 止 る活 な	援防 ・災 支訓 援練 をや す災 害時 の活 動の 救	活保地 動全域 ・の 自然環 保境 美 化、 環 境	老自 人治 ク会 ラ・ 地 区 協 議 会 な ど の 活 動
全	体 (N=1,339)	2.4	5.8	2.8	8.6	4.3	5.8	5.9	15.2
地 域 別	東部地域 (n= 269)	2.6	5.2	2.2	10.4	6.7	7.8	6.3	16.0
	西部地域 (n= 355)	0.8	5.9	3.1	8.2	2.8	6.2	6.2	16.6
	南部地域 (n= 340)	2.4	6.5	3.2	9.1	4.4	6.5	5.6	15.6
	北部地域 (n= 261)	3.8	6.1	3.4	8.0	4.2	3.8	6.9	14.9

(2) 地域活動・ボランティア活動への取組意向（問12）

問12 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたいと考えていますか。（1つに○）

○ 経年で比較すると、28年度は「機会があれば、取り組んでもよい」と「取り組みたいが、できない」がともに26.8%で最も高くなっている。一方、25年度は「取り組みたいが、できない（30.0%）」が最も多く、「あまり取り組みたくない（26.0%）」が続いている。

図表 3-27 地域活動・ボランティア活動への取組意向（全体）【経年比較】



(3) 地域活動・ボランティア活動に取り組まない理由（問12-1）

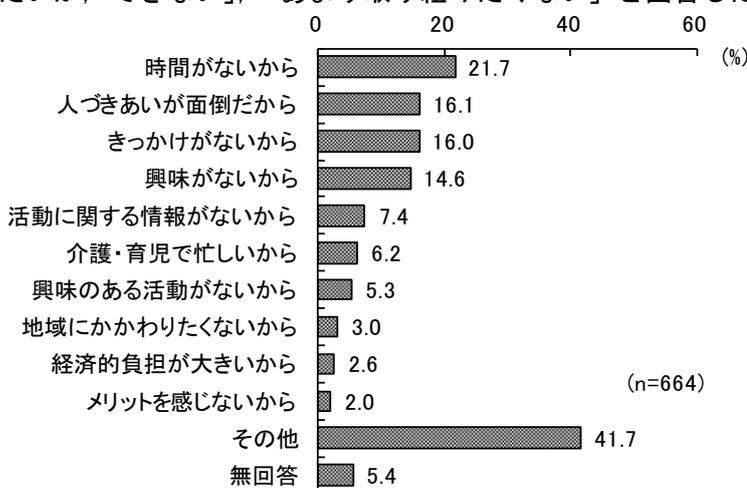
問12-1 問12で4, 5と答えた方におたずねします。

地域活動・ボランティア等に取り組まない理由は何ですか。（いくつでも○）

- 「取り組みたいが、できない」と「あまり取り組みたくない」と回答した人に取り組まない理由をたずねたところ、「時間がないから」が2割で最も多く、「人づきあいが面倒だから（16.1%）」、「きっかけがないから（16.0%）」が続いている。
- また、「その他」として、健康上の理由や、高齢による理由を挙げる人が多数いた。

図表3-28 地域活動・ボランティア活動（全体）

<「取り組みたいが、できない」、「あまり取り組みたくない」と回答した方>

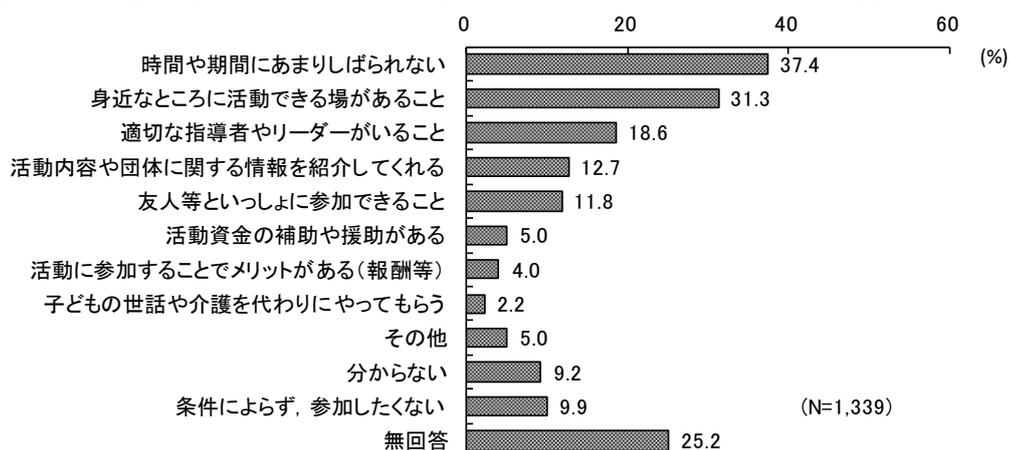


(4) 地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件（問13）

問13 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動等に参加・活動しやすいと思いますか。（いくつでも○）

- 地域活動・ボランティア活動へ参加しやすい条件は、「時間や期間にあまりしばられない」が3割台後半で最も多く、「身近なところに活動できる場があること」が3割、「適切な指導者やリーダーがいること」が1割台後半が続いている。また、「条件によらず、参加したくない」は1割である。

図表3-29 地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件（全体：複数回答）



(5) 市の福祉ボランティア養成講座等の認知度，参加意向（問 14）

問 14 調布市では，福祉ボランティアの養成講座を開催しています。

①あなたは，次のような養成講座をご存知でしたか。

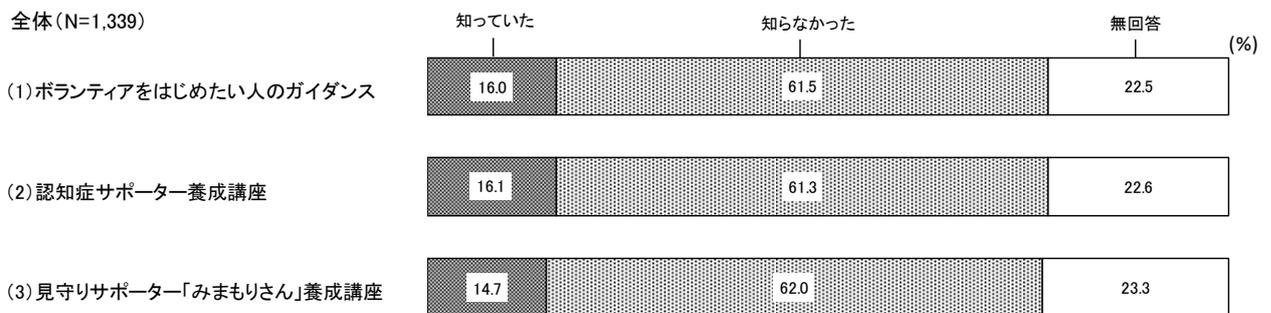
②あなたは，今後次のような養成講座に参加したいと思いますか。

(1)～(3)について，①と②のそれぞれ1つに○をつけてください。

① 市の福祉ボランティア養成講座等の認知度

市の福祉ボランティアの養成講座等について「知っていた」と回答したのは，それぞれ『認知症サポーター養成講座』が 16.1%，『これからボランティアをはじめたい人のガイダンス』が 16.0%，『見守りサポーター「みまもりさん」養成講座』が 14.7% である。

図表 3-30 市の福祉ボランティア養成講座等の認知度（全体）

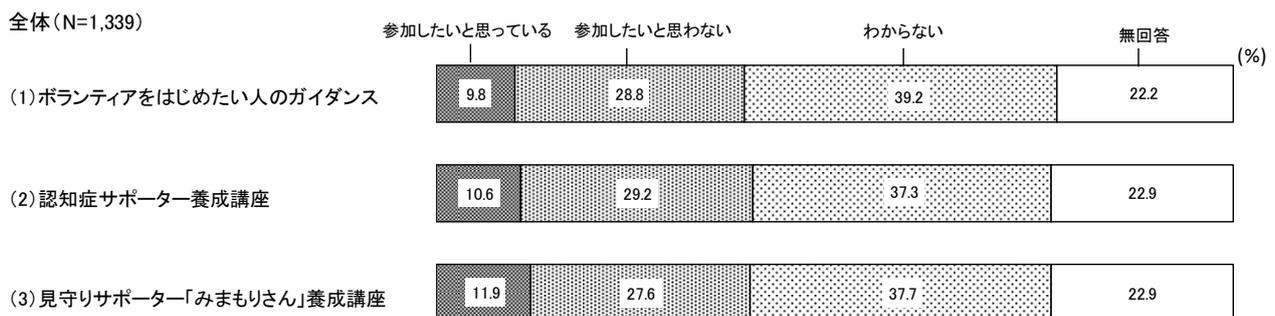


② 市の福祉ボランティア養成講座等への参加意向

○ 市の福祉ボランティア養成講座等へ「参加したいと思っている」と回答した割合は，それぞれ『見守りサポーター「みまもりさん」養成講座』が 11.9%，『認知症サポーター養成講座』が 10.6%，『これからボランティアをはじめたい人のガイダンス』が 9.8% である。

○ また，それぞれの項目について，3割以上の人「分からない」と回答している。

図表 3-31 市の福祉ボランティア養成講座等への参加意向（全体）



(6) 身近な拠点の利用状況 (問 15)

問 15 これまであなたが身近な活動拠点として利用している施設は、次のうちどこですか。
(いくつでも○)

- 身近な拠点の利用状況は、全体では「図書館」と「文化会館たづくり」が2割台で多くなっている。
- 性・年代別にみると、女性・75～84歳は「地域福祉センター」が2割台後半で、全体と比べて10.9ポイント高くなっている。
- 地域別にみると、東部地域では「特にない」が4割を超えている。

図表 3-32 身近な拠点の利用状況 (全体, 性・年代別, 地域別: 複数回答)

			た文 づ化 く会 り館	セ 域 タ 福 祉	セ 総 ン 合 タ 福 祉	タ 支 市 援 民 活 セン	の ふ 家 れ あ い	公 民 館	図 書 館
全 体 (N=1,339)			24.3	16.4	4.7	1.5	5.3	5.1	24.5
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	21.2	8.9	3.3	1.5	1.9	1.9	30.1
		75～84歳 (n= 204)	23.0	15.7	4.9	1.0	6.4	5.9	26.5
		85歳以上 (n= 35)	11.4	8.6	2.9	0.0	2.9	0.0	5.7
	女性	65～74歳 (n= 325)	30.2	16.6	4.9	2.2	6.2	6.5	31.1
		75～84歳 (n= 289)	26.6	27.3	5.9	1.4	6.9	6.9	19.0
		85歳以上 (n= 104)	17.3	13.5	5.8	1.0	4.8	3.8	8.7
地域別	東部地域 (n= 269)		16.7	18.2	1.9	1.9	3.3	5.9	23.8
	西部地域 (n= 355)		30.7	14.9	5.1	1.7	5.9	7.3	25.6
	南部地域 (n= 340)		25.6	17.4	6.5	1.8	5.3	3.2	24.1
	北部地域 (n= 261)		23.4	16.5	4.2	0.4	7.3	5.0	26.1

(%)

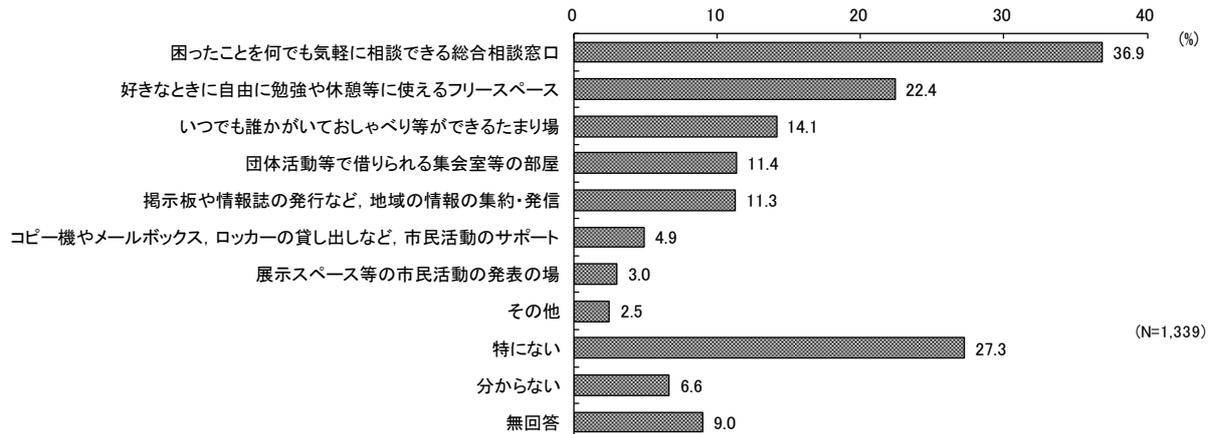
			中 小 学 校 校 ・	設 民 間 の 施	個 人 宅	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体 (N=1,339)			3.2	3.1	2.7	4.7	38.4	8.6
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	4.8	1.5	1.9	3.7	45.7	4.5
		75～84歳 (n= 204)	3.9	2.5	2.5	6.4	36.8	6.9
		85歳以上 (n= 35)	2.9	0.0	5.7	0.0	51.4	17.1
	女性	65～74歳 (n= 325)	2.2	4.9	3.4	6.8	33.2	6.2
		75～84歳 (n= 289)	2.4	3.8	3.1	3.1	34.9	8.0
		85歳以上 (n= 104)	3.8	2.9	1.9	3.8	49.0	16.3
地域別	東部地域 (n= 269)		1.9	3.0	3.7	4.1	42.8	7.1
	西部地域 (n= 355)		3.7	3.1	2.5	5.4	36.6	7.0
	南部地域 (n= 340)		4.7	2.1	2.9	5.0	37.6	8.5
	北部地域 (n= 261)		2.3	5.0	2.3	5.4	36.8	7.7

(7) 拠点の機能に関する希望 (問 16)

問 16 あなたが身近な活動拠点に求める機能は、どのようなものですか。(3つまで○)

- 拠点の機能に関する希望は、「困ったことを何でも気軽に相談できる総合相談窓口」が3割台で最も多く、「好きなときに自由に勉強や休憩等に使えるフリースペース」が2割、「いつでも誰かがいておしゃべり等ができるたまり場」が1割台で続いている。

図表 3-33 拠点の機能に関する希望 (全体：複数回答 (3つまで))

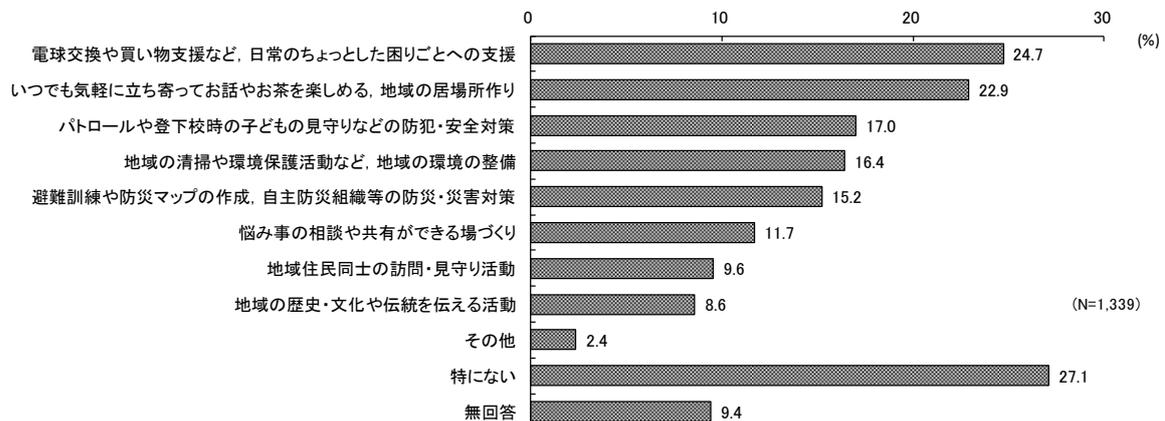


(8) 地域で支え合ってできるとよいこと (問 17)

問 17 あなたが、地域で支えあってできるとよいと思うことは、次のうちどのようなことですか。(3つまで○)

- 地域で支え合ってできるとよいことは、「電球交換や買い物支援など、日常のちょっとした困りごとへの支援 (24.7%)」が最も多く、「いつでも気軽に立ち寄ってお話やお茶を楽しめる、地域の居場所作り (22.9%)」、「パトロールや登下校時の子どもの見守りなどの防犯・安全対策 (17.0%)」が続いている。
- また、「特にない」は27.1%であり、約4分の1は地域で支え合ってできるとよいと思うことは特にないと考えている。

図表 3-34 地域で支え合ってできるとよいこと (全体：複数回答 (3つまで))



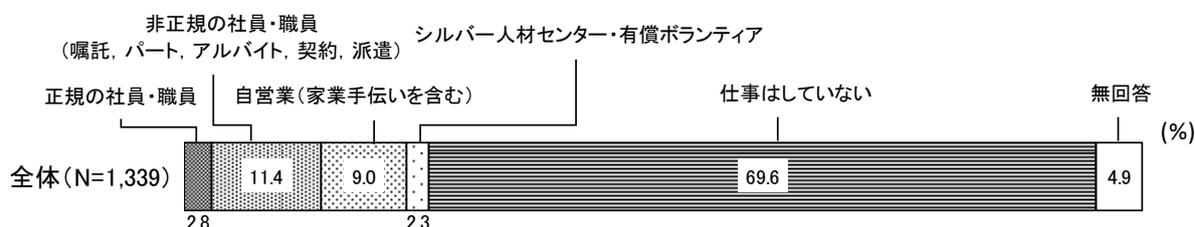
5 就労

(1) 就労状況 (問18)

問18 あなたは現在、どのような仕事をしていますか。(1つに○)

- 現在の就労状況は、**全体**では《仕事をしている》※は25.5%であり、高齢者の約4分の1は働いていることが分かる。
- **性・年代別**にみると、いずれの年代でも男性は女性と比べて《仕事をしている》の割合が高くなっている。また、男性・65～74歳では5割、女性・65～74歳では3割が《仕事をしている》と答えている。
- また、**主観的健康観別**にみると、「大変健康である(35.9%)」と「おおむね健康に生活している」人の3割以上は、《仕事をしている》と答えている。

図表 3-35 就労状況 (全体)



図表 3-36 就労状況 (全体, 性・年代別, 主観的健康観別)

			(%)		
			し仕 て事 いを る	いし仕 て事 いは な	無 回 答
全 体 (N=1,339)			25.5	69.6	4.9
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	49.8	47.6	2.6
		75～84歳 (n= 204)	18.1	78.9	2.9
		85歳以上 (n= 35)	2.9	91.4	5.7
	女性	65～74歳 (n= 325)	32.3	64.3	3.4
		75～84歳 (n= 289)	11.1	83.4	5.5
		85歳以上 (n= 104)	0.0	86.5	13.5
主観的健康観別	大変健康である (n= 103)		35.9	63.1	1.0
	おおむね健康で普通に生活している (n= 796)		32.4	65.6	2.0
	健康に不安がある (n= 298)		14.4	79.2	6.4
	病気や障害があって、日常生活が困難である (n= 107)		3.7	90.7	5.6

※《仕事をしている》:「正規の社員・職員」,「非正規の社員・職員(嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)」,「自営業(家業手伝いを含む)」,「シルバー人材センター・有償ボランティア」の合計

(2) 今後の就労意向 (問 19)

問 19 あなたは今後、どのような仕事をしたい (続けたい) ですか。(1つに○)

- 今後の就労意向は、全体では「非正規の社員・職員 (嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)」と「シルバー人材センター・有償ボランティア」が1割となっており、《就労意向あり》*が3割となっている。
- 年代別にみると、《就労意向あり》の割合は、65～74歳が44.5%、75～84歳が21.5%となっている。また、希望する就労形態では65～74歳では「非正規の社員・職員 (嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)」が最も多いが、75歳以上では「シルバー人材センター・有償ボランティア」が最も多くなっている。
- 性・年代別にみると、《就労意向あり》の割合は、男性・65～74歳で5割台、女性・65～74歳で3割台と高くなっている。

図表 3-37 今後の就労意向 (全体, 年代別, 性・年代別)

			正 規 の 社 員 ・ 職 員	契 約 、 ア ル バ イ ト 、 派 遣	非 正 規 の 社 員 ・ 職 員 (嘱 託 、 パ ー ト 、 ア ル バ イ ト 、 契 約 、 派 遣)	自 営 業 (家 業 手 伝 い を 含 む)	テ タ シ ル バ ー 人 材 セ ン タ ー ・ 有 償 ボ ラ ン テ ィ ア	な い 事 を し た く な い が 必 要 が	(%) 無 回 答
全	体	(N=1,339)	2.2	10.8	7.7	9.8	49.9	19.7	
年 代 別	65～74歳	(n=595)	4.0	18.5	9.9	12.1	42.5	12.9	
	75～84歳	(n=498)	0.6	4.6	6.8	9.4	54.6	23.9	
	85歳以上	(n=139)	0.0	0.0	0.0	0.7	69.8	29.5	
性 ・ 年 代 別	男 性	65～74歳	(n=269)	6.7	21.9	14.5	12.6	37.2	7.1
		75～84歳	(n=204)	1.0	4.9	7.8	13.2	55.9	17.2
		85歳以上	(n=35)	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0
	女 性	65～74歳	(n=325)	1.8	15.7	6.2	11.4	47.1	17.8
		75～84歳	(n=289)	0.3	4.5	5.9	6.9	53.6	28.7
		85歳以上	(n=104)	0.0	0.0	0.0	1.0	66.3	32.7

※《就労意向あり》: 「正規の社員・職員」, 「非正規の社員・職員 (嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)」, 「自営業 (家業手伝いを含む)」, 「シルバー人材センター・有償ボランティア」の合計

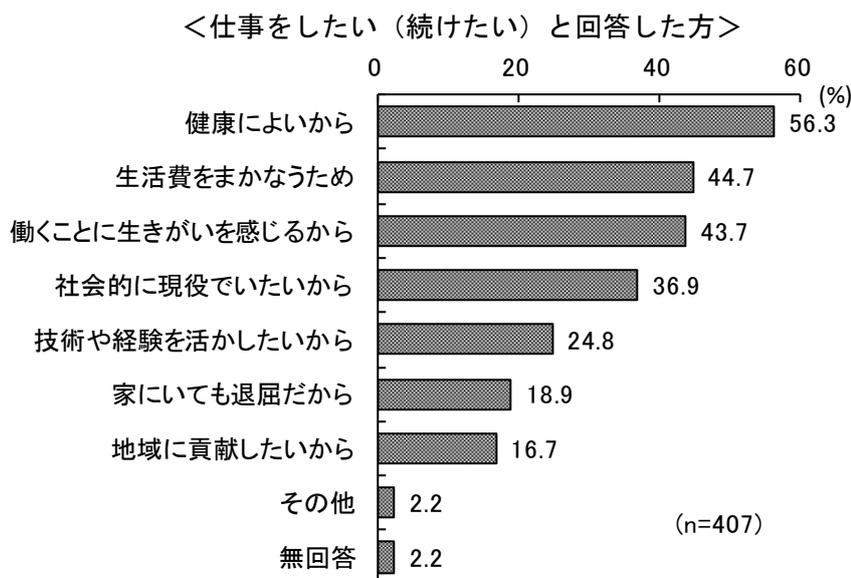
《就労意向なし》: 「仕事をする必要がない, したくない」と答えた人

(3) 仕事をしたい理由 (問 19-1)

問 19-1 仕事をしたい理由は何ですか。(いくつでも○)

- 仕事をしたい (続けたい) と回答した人に仕事をしたい理由をたずねたところ、「健康によいから (56.3%)」が最も多く、「生活費をまかなうため (44.7%)」, 「働くことに生きがいを感じるから (43.7%)」が続いている。

図表 3-38 仕事をしたい理由 (全体: 複数回答)



6 健康・医療

(1) 主観的健康観 (問 20)

問 20 あなたの健康状態についてお答えください。(1つに○)

- 全体では、「おおむね健康で普通に生活している (59.4%)」が最も多く、「健康に不安がある」は 22.3%となっている。
- 性・年代別にみると、男女ともに「健康に不安がある」は年代が上がるほど高くなっている。また、「健康に不安がある」の割合は、男性・85歳以上では 37.1%、女性・85歳以上では 44.2%である。
- 地域別にみると、西部地域では「大変健康である」が 1割で、4地域中最も高くなっている。

図表 3-39 主観的健康観 (全体, 性・年代別, 地域別)

		大変健康である	普通に生活している	健康に不安がある	日常生活が困難である	病状がひどい	無回答
全 体 (N=1,339)		7.7	59.4	22.3	8.0	2.6	
性・年代別	男性						
	65~74歳 (n= 269)	13.8	68.8	11.9	3.3	2.2	
	75~84歳 (n= 204)	4.4	60.3	23.0	10.3	2.0	
	85歳以上 (n= 35)	5.7	40.0	37.1	17.1	0.0	
	女性						
	65~74歳 (n= 325)	9.2	68.0	15.1	5.8	1.8	
75~84歳 (n= 289)	5.5	54.7	28.0	9.0	2.8		
85歳以上 (n= 104)	1.0	34.6	44.2	15.4	4.8		
地域別	東部地域 (n= 269)	5.9	60.2	21.2	8.6	4.1	
	西部地域 (n= 355)	10.4	60.3	20.3	6.8	2.3	
	南部地域 (n= 340)	7.9	58.5	23.5	7.9	2.1	
	北部地域 (n= 261)	5.7	63.2	23.0	6.9	1.1	

(2) 健康に不安があることの内容 (問 20-1)

問 20-1 以下のうち、当てはまるものすべてに○をつけてください。(いくつでも○)

- 「健康に不安がある」と回答した人にその内容は、全体では「固いものが食べにくくなった (30.2%)」が最も多く、「外出することが難しくなった (29.5%)」「周りの人から「もの忘れが多くなった」と言われる (21.1%)」が続いている。
- 性・年代別にみると、男性・85歳以上の 53.8%、女性・85歳以上の 63.0%が「外出することが難しくなった」と答えており、ともに5割を超えている。また、男性・75～84歳と男性・85歳以上の3割以上が、「周りの人から「もの忘れが多くなった」と言われる」と答えている。

図表 3-40 健康に不安があることの内容 (全体, 性・年代別: 複数回答)

<健康状態で「健康に不安がある」と回答した方>

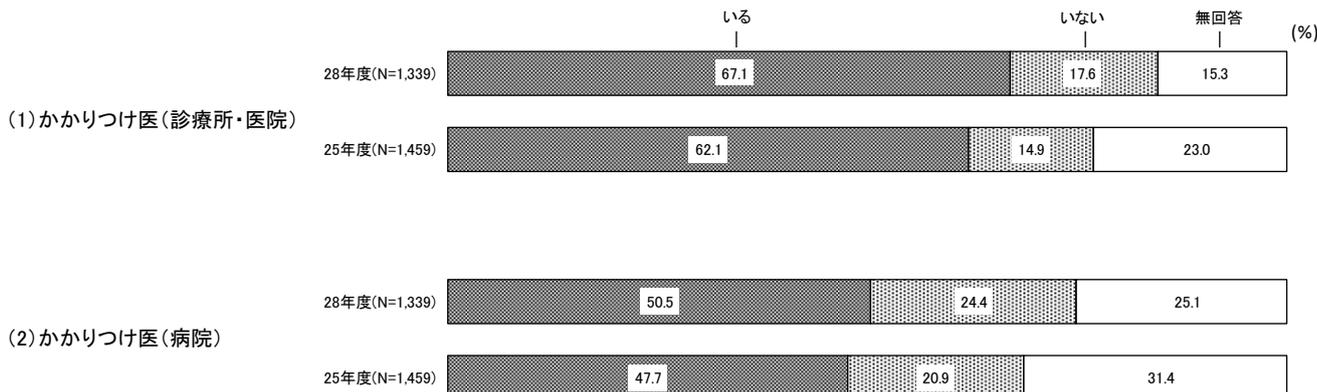
		が転多倒くするつこたと	たべ固にいにくくながつ食	なむおつせ茶たるや汁う物にで	と多一周と言くわの忘れたら	たが外難出しすくなつと	な入浴が難しく	その他	の当はてはないまるも	無回答
全	体 (n=298)	20.1	30.2	17.4	21.1	29.5	12.4	27.2	16.8	1.3
性・年代別	男性 65～74歳 (n= 32)	9.4	34.4	9.4	6.3	12.5	0.0	18.8	31.3	3.1
	男性 75～84歳 (n= 47)	8.5	36.2	23.4	31.9	38.3	6.4	29.8	6.4	0.0
	男性 85歳以上 (n= 13)	30.8	38.5	23.1	30.8	53.8	15.4	15.4	7.7	0.0
	女性 65～74歳 (n= 49)	14.3	22.4	10.2	14.3	8.2	2.0	40.8	20.4	2.0
	女性 75～84歳 (n= 81)	19.8	25.9	16.0	21.0	21.0	12.3	29.6	21.0	0.0
	女性 85歳以上 (n= 46)	34.8	37.0	19.6	28.3	63.0	34.8	15.2	0.0	4.3

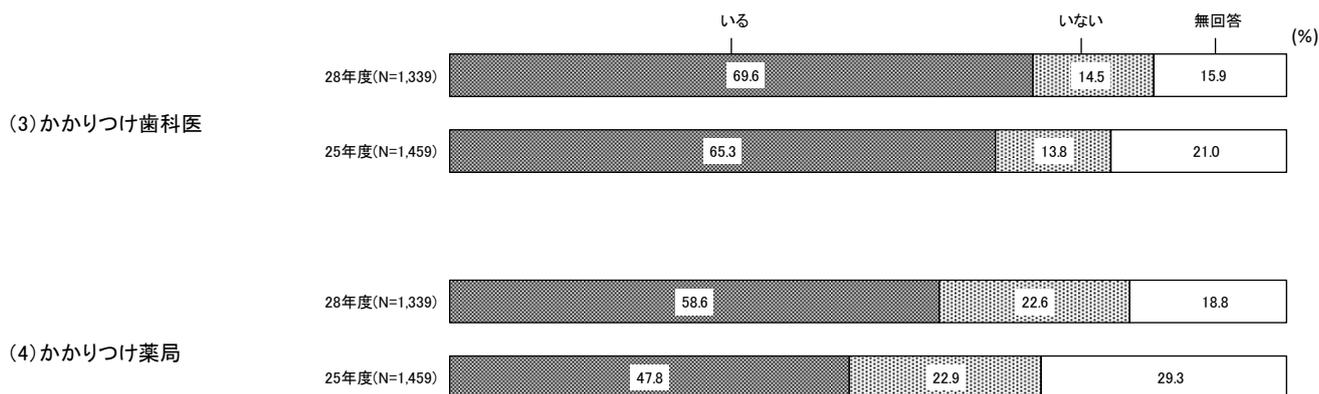
(3) かかりつけ医・歯科医・薬局の有無 (問 21)

問 21 あなたには、「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」※はありますか。
(1)～(4)について、それぞれ1つに○をつけてください。

- 「いる」の割合は、全体ではいずれも5割を超えており、最も高いのは「かかりつけ歯科医 (69.6%)」である。
- 経年で比較すると、28年度は、25年度に比べ、かかりつけの診療所・医院、病院、歯科医、薬局のすべてで「いる」の割合が5割を超えて高くなっている。

図表 3-41 かかりつけ医・歯科医・薬局の有無 (全体)【経年比較】



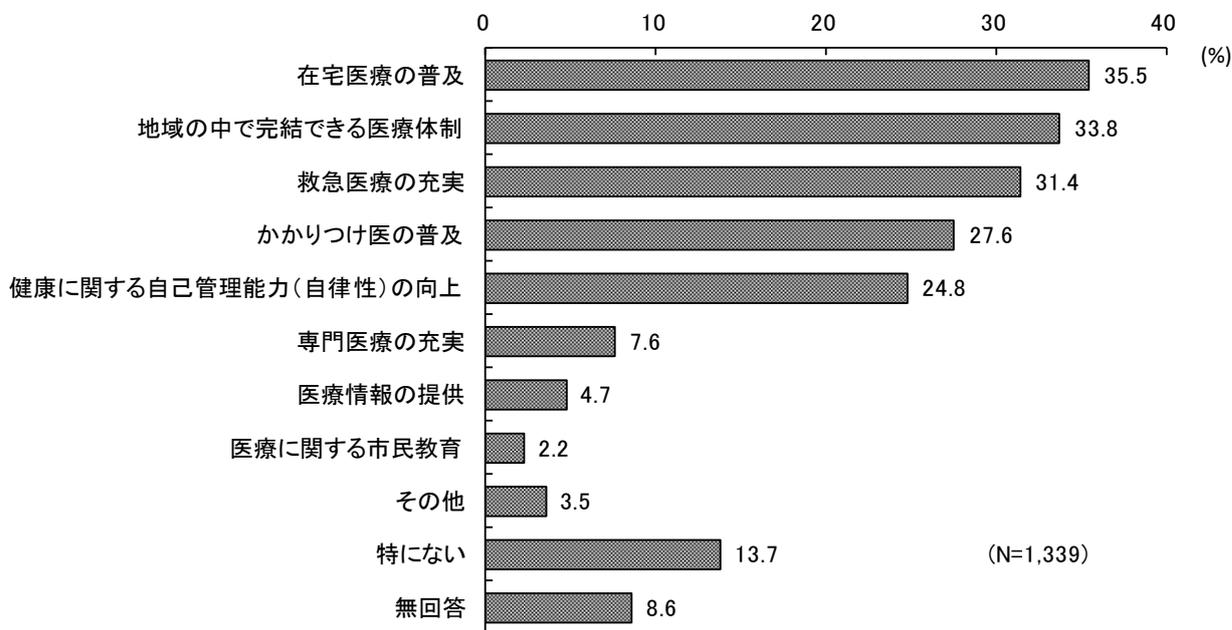


(4) 調布市の医療をよりよくするために必要だと思うこと (問 22)

問 22 調布市の医療をよりよくするために何が重要だと思いますか。(いくつでも○)

- 調布市の医療をよりよくするために必要だと思うことは、「在宅医療の普及 (35.5%)」が最も多く、「地域の中で完結できる医療体制 (33.8%)」, 「救急医療の充実 (31.4%)」が続いている。

図表 3-42 調布市の医療をよりよくするために必要だと思うこと (全体：複数回答)



7 運動・介護予防

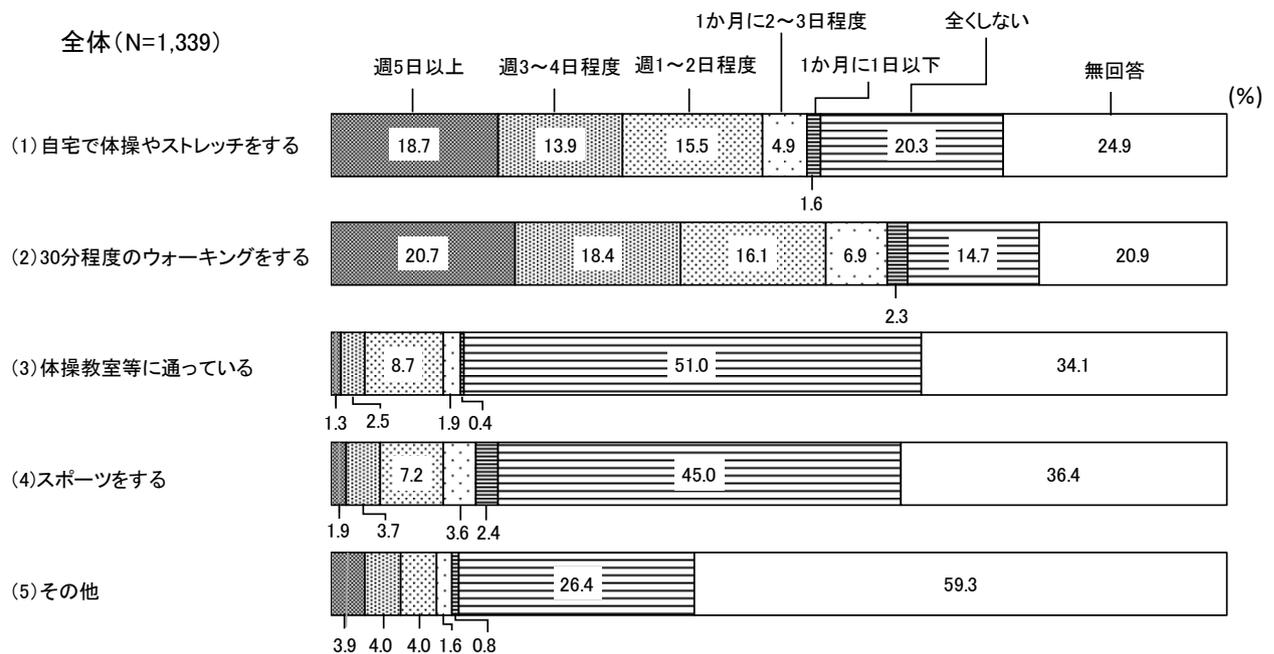
(1) どのような運動を日ごろ行っているか (問 23)

問 23 あなたは、日ごろ体操や散歩など、何かしら運動をしていますか。また、どのくらいの頻度で運動をしていますか。

(1)～(5)について、それぞれ1つに○をつけてください。

- 『(1)自宅で体操やストレッチをする』は、「週5日以上 (18.7%)」が最も多く、「週1～2日程度 (15.5%)」が続いている。「全くしない」は、20.3%となっている。
- 『(2)30分程度の散歩やウォーキングをする』は、「週5日以上 (20.7%)」が最も多く、「週3～4日程度 (18.4%)」が続いている。「全くしない」は、14.7%となっている。
- 『(3)体操教室等に通っている』は、「週1～2日程度 (8.7%)」が最も多く、「全くしない」は、51.0%となっている。
- 『(4)スポーツをする』は、「週1～2日程度 (7.2%)」が最も多く、「全くしない」は、45.0%となっている。

図表 3-43 どのような運動を日ごろ行っているか (全体)



(2) 参加を希望する健康づくり事業、事業の形式 (問 24)

問 24 調布市では、健康管理や介護予防のためにさまざまな健康づくり事業を行っています。
 どのような健康づくり事業に参加したいですか。

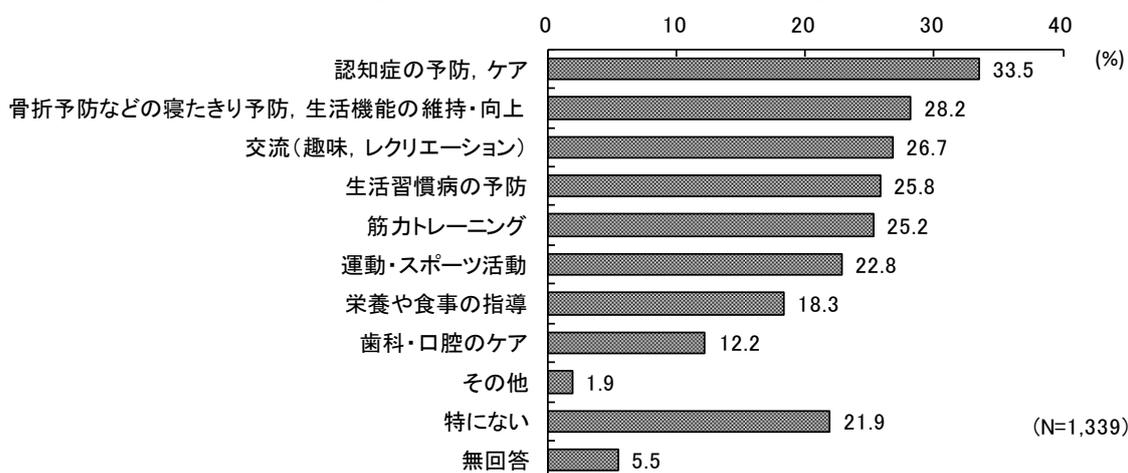
(1) あなたは将来に向けて、どのような種類の健康づくりの事業に参加してみたいですか。
 (いくつでも○)

(2) どのような形式の健康づくりの事業に参加してみたいですか。(いくつでも○)

① 参加を希望する健康づくり事業

- 「認知症の予防、ケア (33.5%)」が最も多く、「骨折予防などの寝たきり予防、生活機能の維持・向上 (28.2%)」、「交流(趣味, レクリエーション) (26.7%)」が続いている。

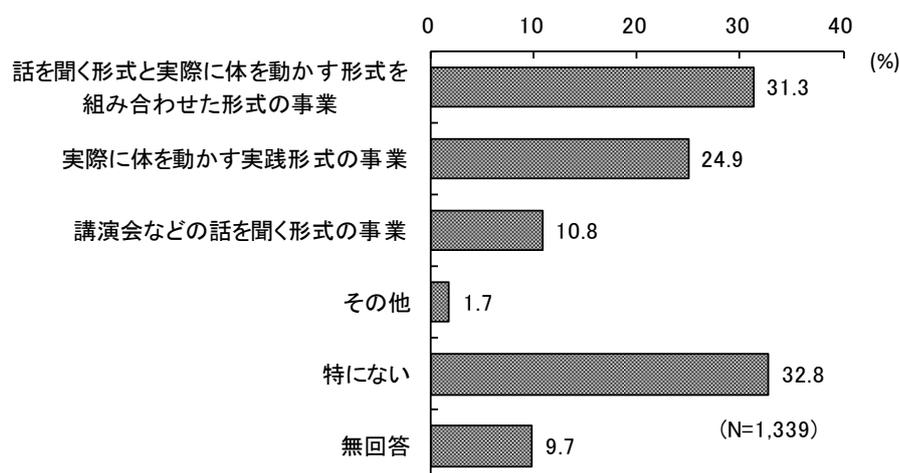
図表 3-44 参加を希望する健康づくり事業 (全体：複数回答)



② 参加を希望する健康づくり事業の形式

- 「講演会などの話を聞く形式と実際に体を動かす実践形式を組み合わせた形式の事業 (31.3%)」が最も多く、「実際に体を動かす実践形式の事業 (24.9%)」、「講演会などの話を聞く形式の事業 (10.8%)」が続いている。「特にない」は 32.8% である。

図表 3-45 参加を希望する健康づくり事業の形式 (全体：複数回答)



8 介護者支援

(1) 介護経験の有無 (問 25)

問 25 あなたは介護（遠距離介護を含む）をしていますか。また、していましたか。(1つに○)

- 介護経験の有無は、全体では「介護している」は1割であり、「介護を終えた(19.7%)」と合わせると、約3割の人に介護経験がある。
- 性・年代別にみると、女性・65～74歳では「介護している」の割合は16.3%で全体より6.3ポイント高くなっている。
- 介護の有無別にみると、現在「介護を受けている」人の1割が、「介護をしている」と答えている。

図表 3-46 介護経験の有無 (全体, 性・年代別, 介護の有無別)

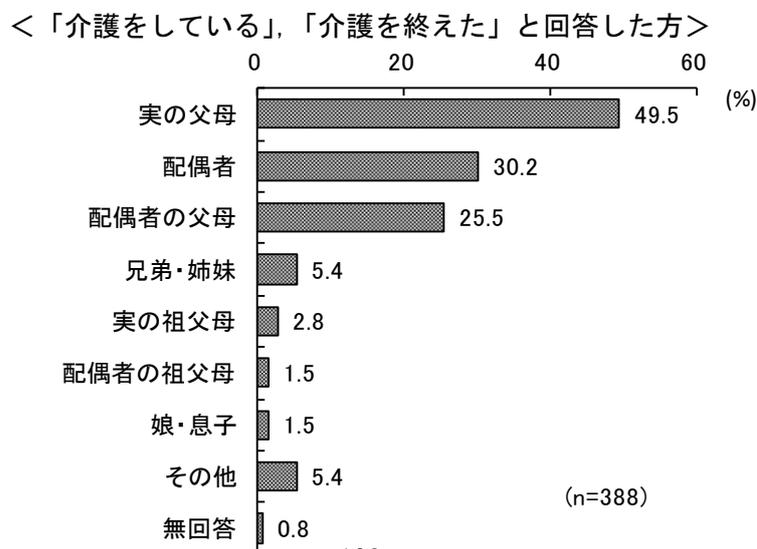
			介護している	介護を終えた	介護していない	無回答
全 体		(N=1,339)	10.0	19.0	64.0	7.0
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	10.4	16.4	70.3	3.0
		75～84歳 (n= 204)	7.8	11.8	75.5	4.9
		85歳以上 (n= 35)	2.9	8.6	74.3	14.3
	女性	65～74歳 (n= 325)	16.3	27.1	50.8	5.8
		75～84歳 (n= 289)	7.6	21.1	61.6	9.7
		85歳以上 (n= 104)	1.0	21.2	67.3	10.6
介護の有無別	受けている (n= 160)	10.0	16.3	55.0	18.8	
	受けていない (n=1,101)	10.6	19.6	65.5	4.3	

(2) 介護の対象者 (問 25-1)

問 25-1 それはどなたですか。(いくつでも○)

- 「介護をしている」、「介護を終えた」と回答した人に介護の対象者をたずねたところ、「実の父母」が最も多く5割,「配偶者」,「配偶者の父母」が続いている。

図表 3-47 介護の対象者 (全体:複数回答)

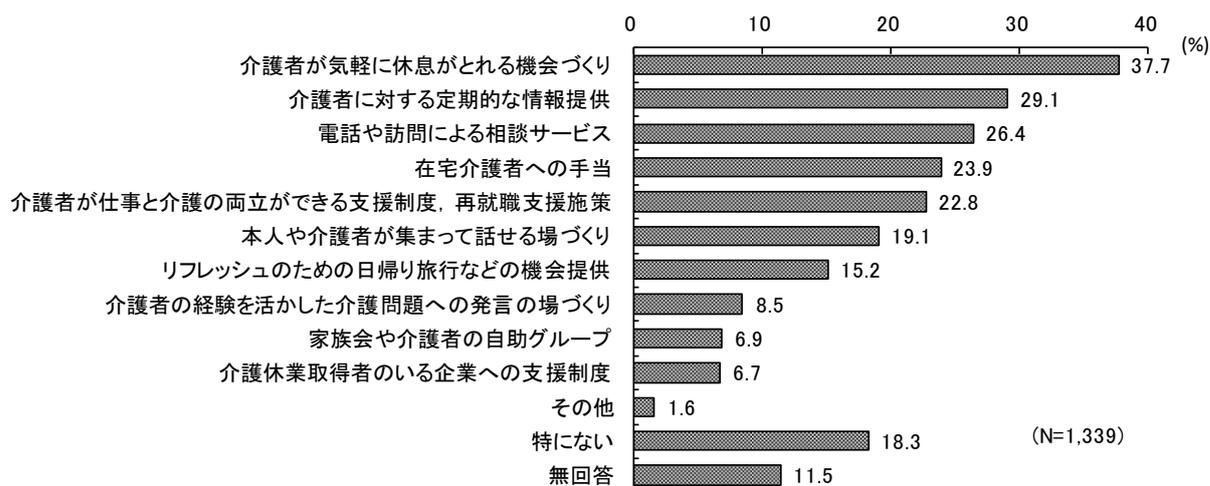


(3) 必要な介護者支援策 (問 26)

問 26 介護者支援策として、あなたが必要だと思うことは次のどれですか。(いくつでも○)

- 介護者に必要な支援は、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり (37.7%)」が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供 (29.1%)」, 「電話や訪問による相談サービス (26.4%)」が続いている。

図表 3-48 必要な介護者支援策 (全体：複数回答)



9 認知症

(1) 認知症のイメージ (問 27)

問 27 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。最も近いと思うものをお答えください。(1つに○)

- 全体では、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける (36.2%)」が最も多く、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる (24.9%)」が続いている。
- 性・年代別にみると、男性・85 歳以上は「認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう (17.1%)」が全体と比べて 6.8 ポイント高くなっている。また、女性は年代が上がるほど「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」の割合が低くなっている。

図表 3-49 認知症のイメージ (全体, 性・年代別)

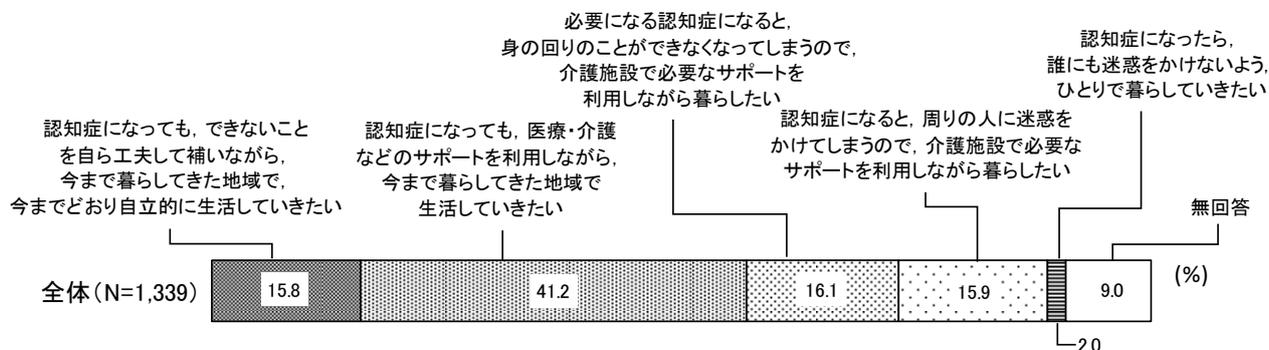
			ま	今	と	認	生	な	認	が	入	と	認	域	う	ど	認	ま	て	認	無	
			で	ま	を	知	活	ら	知	入	つ	が	知	で	の	周	知	ま	う	知	回	
			ど	を	ら	症	し	、	の	必	が	で	症	で	の	り	症	う	ゆ	知	答	
			お	ら	に	に	て	い	ま	に	て	さ	に	生	で	、	の	に	き	症		
			り	工	な	な	い	ま	さ	さ	さ	な	な	活	今	人	な	な	な	な		
			自	夫	つ	つ	け	暮	ら	ト	な	く	と	す	ま	こ	と	と	も	と		
			立	て	も	、	る	し	を	を	り	、	、	こ	で	暮	惑	、	で	、		
			に	た	補	、	、	て	利	、	利	、	身	が	ら	を	暴	な	な	な		
			生	地	い	で	き	た	し	、	、	、	の	難	し	か	言	、	な	な		
			活	域	が	な	い	、	、	、	、	、	回	し	て	き	、	、	な	な		
			で	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			き	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			る	今	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	
全	体	(N=1,339)	12.8	36.2	24.9	4.0	10.3	11.9														
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	11.2	35.7	30.1	4.5	13.0	5.6														
		75～84歳 (n= 204)	15.7	39.7	22.1	2.0	6.9	13.7														
		85歳以上 (n= 35)	8.6	31.4	25.7	0.0	17.1	17.1														
	女性	65～74歳 (n= 325)	11.1	41.5	28.0	2.8	8.3	8.3														
		75～84歳 (n= 289)	13.1	37.7	19.7	4.8	11.4	13.1														
		85歳以上 (n= 104)	13.5	25.0	23.1	6.7	11.5	20.2														

(2) 認知症になった場合の暮らし (問 28)

問 28 もし、あなたが認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか。最も近いと思うものをお答えください。(1つに○)

- 「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい (41.2%)」が最も多く、「認知症になると、身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい (16.1%)」、「認知症になると、周りの人に迷惑をかけてしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい (15.9%)」が続いている。
- また、57.0%が《今まで暮らしてきた地域で生活していきたい》※と答えており、半数を超えている。

図表 3-50 認知症になった場合の暮らし (全体)



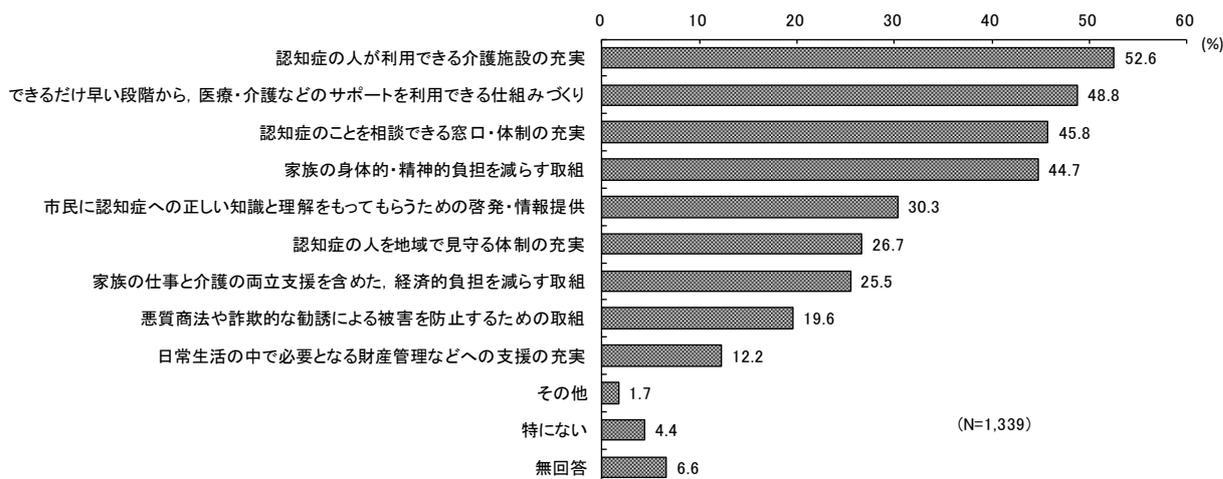
※ 《今まで暮らしてきた地域で生活していきたい》: 「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活していきたい」と「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」の合計。

(3) 求める認知症施策（問 29）

問 29 調布市の認知症施策でこれから必要だと思うことは次のどれですか。（いくつでも○）

- 求める認知症施策は、「認知症の人が利用できる介護施設の充実（52.6%）」が最も多く、「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり（48.8%）」、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実（45.8%）」が続いている。

図表 3-51 求める認知症施策（全体）



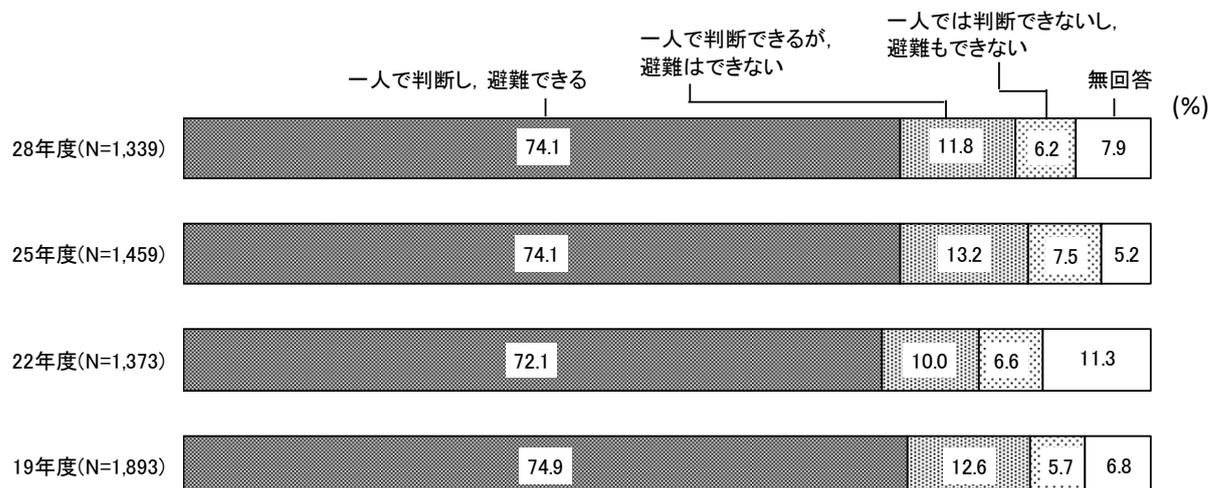
10 災害時の対応

(1) 災害時の避難が一人で行えるか（問 30）

問 30 あなたは、災害や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか。（1つに○）

- 全体では、「一人で判断し、避難できる」が 74.1%で、「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人では判断できないし、避難もできない」を合わせた《一人で避難できない》は、18.0%である。
- 経年で比較すると、28年度は19年度から25年度までと同様、「一人で判断し、避難できる」は7割台となっている。

図表 3-52 災害時の避難が一人で行えるか（全体）【経年比較】

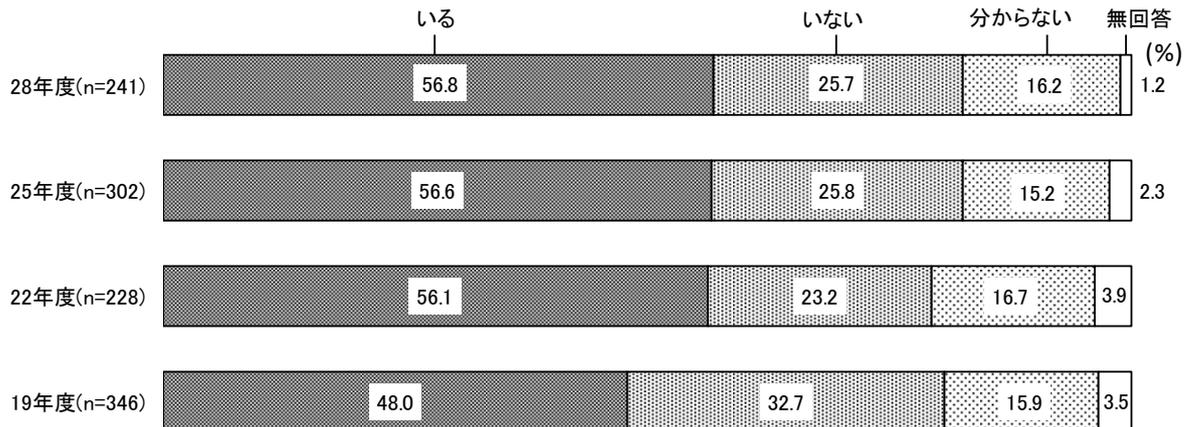


(2) 災害時の避難の際、手助けを頼める人の有無 (問 30-1)

問 30-1 災害や火災など緊急時に避難する際に、手助けを頼める人はいますか。(1つに○)

- 災害等の緊急時に一人で避難できない人に対し、手助けを頼める人の有無をたずねたところ、「いる」が 56.8%、「いない」が 25.7%である。
- 経年で比較すると、28年度は 25年度とほぼ同様の結果である。

図表 3-53 災害時の避難の際、手助けを頼める人の有無 (全体)【経年比較】



- 問 30 と問 30-1 をあわせてみると、全体では、《一人で避難できる》は 74.1%で、《避難できない》は 4.6%である。
- 性・年代別にみると、すべての年代で《一人で避難できる》の割合は、女性が男性に比べて低くなっている。特に、女性・85歳以上の《一人で避難できる》割合は 28.8%で、3割を下回っている。

図表 3-54 災害時の避難が一人でできるか・手助けを頼める人の有無 (全体, 性・年代別)

		き一人 で 避難 で	避 難 を 借 り て	避 難 で き な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体 (N=1,339)		74.1	10.2	4.6	2.9	8.1
性・ 年代 別	男性					
	65~74歳 (n= 269)	91.8	2.2	0.7	2.2	3.0
	75~84歳 (n= 204)	82.4	5.4	4.4	1.5	6.4
	85歳以上 (n= 35)	60.0	17.1	5.7	8.6	8.6
	女性					
	65~74歳 (n= 325)	77.8	8.3	4.0	2.8	7.1
75~84歳 (n= 289)	66.8	11.8	7.6	2.8	11.1	
85歳以上 (n= 104)	28.8	38.5	8.7	8.7	15.4	

※ 《一人で避難できる》: 問 30 で「一人で判断し、避難できる」と答えた人。
 《助けを借りて避難できる》: 問 30-1 で助けを頼める人が「いる」と答えた人。
 《避難できない》: 問 30-1 で助けを頼める人が「いない」と答えた人。
 《わからない》: 問 30-1 で「わからない」と答えた人。

(3) 災害時に向けて普段から地域のためにしていること、できること (問 31)

問 31 災害が起きたときに向けて、地域での取組が求められています。

①あなたが普段から地域のためにしていることはありますか。

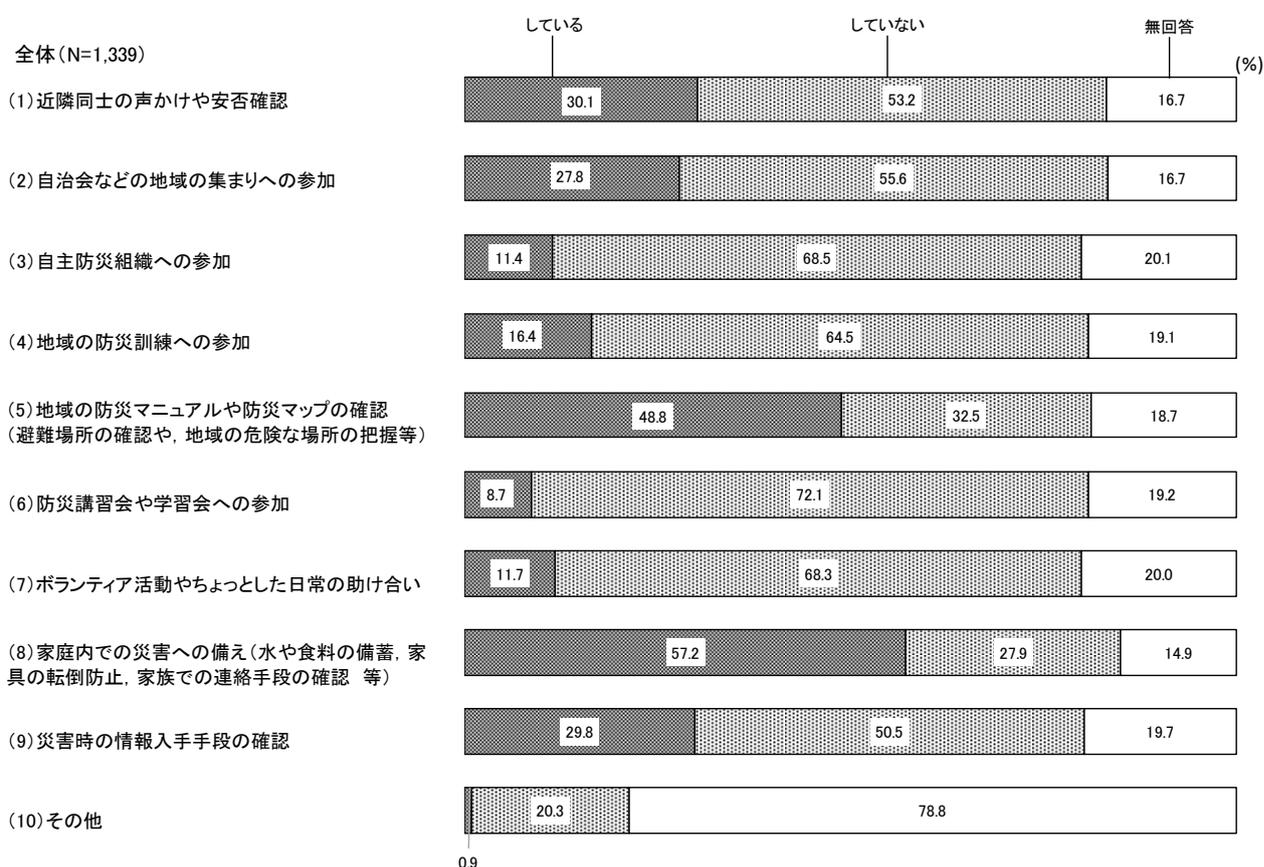
②今後できることはありますか。

(1)～(10)について、①と②のそれぞれ1つに○をつけてください。

① 災害時に向けて普段から地域のためにしていること

○ 「している」の割合は、『家庭内での災害への備え（水や食料の備蓄，家具の転倒防止，家族での連絡手段の確認等）（57.2%）』が最も高く、『地域の防災マニュアルや防災マップの確認（避難場所の確認や，地域の危険な場所の把握等）（48.8%）』、『近隣同士の声かけや安否確認（30.1%）』が続いている。

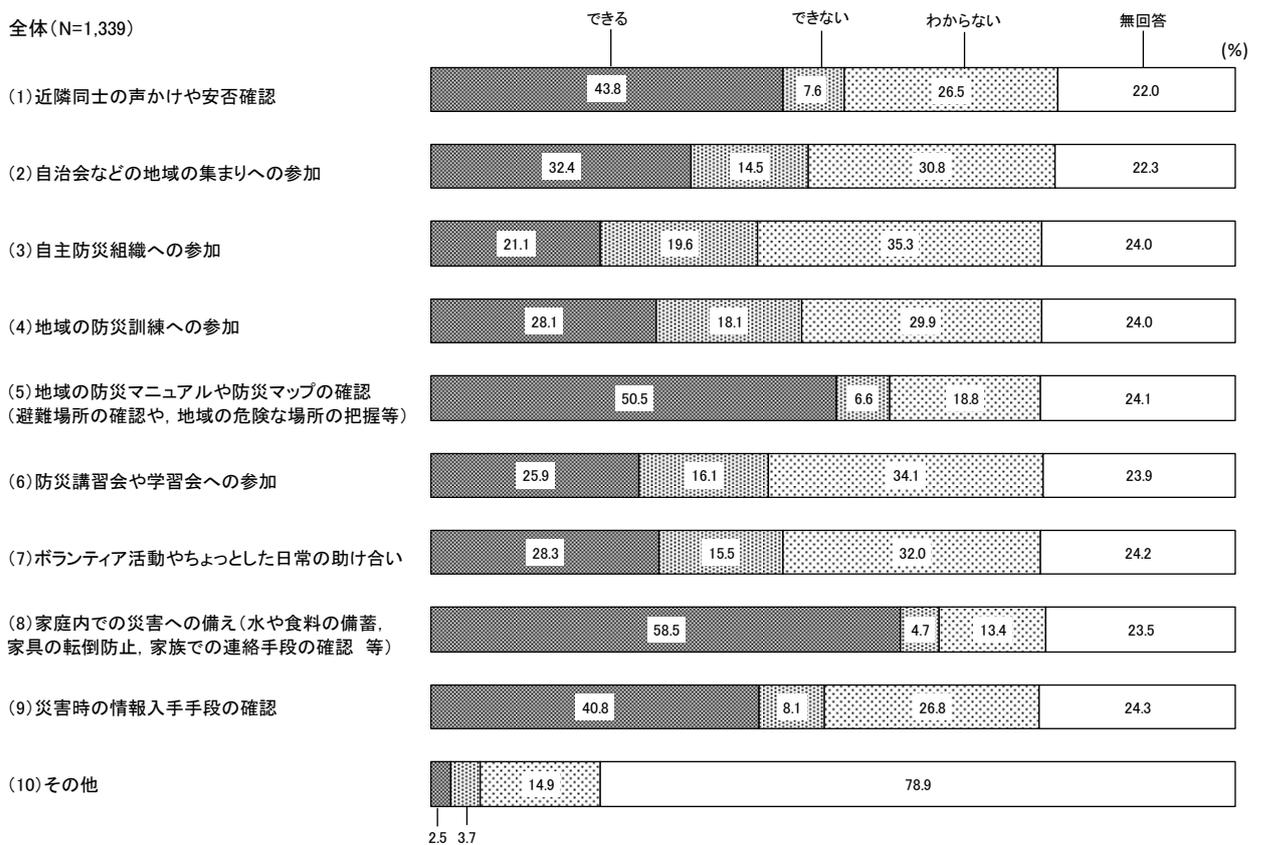
図表 3-55 災害時に向けて普段から地域のためにしていること（全体）



② 災害時に向けて今後できること

○ 「できる」の割合は、『家庭内での災害への備え（水や食料の備蓄，家具の転倒防止，家族での連絡手段の確認等）（58.5%）』が最も高く、『地域の防災マニュアルや防災マップの確認（避難場所の確認や，地域の危険な場所の把握等）（50.5%）』、『近隣同士の声かけや安否確認（43.8%）』が続いている。

図表 3-56 災害時に向けて今後できること（全体）



11 福祉のまちづくり

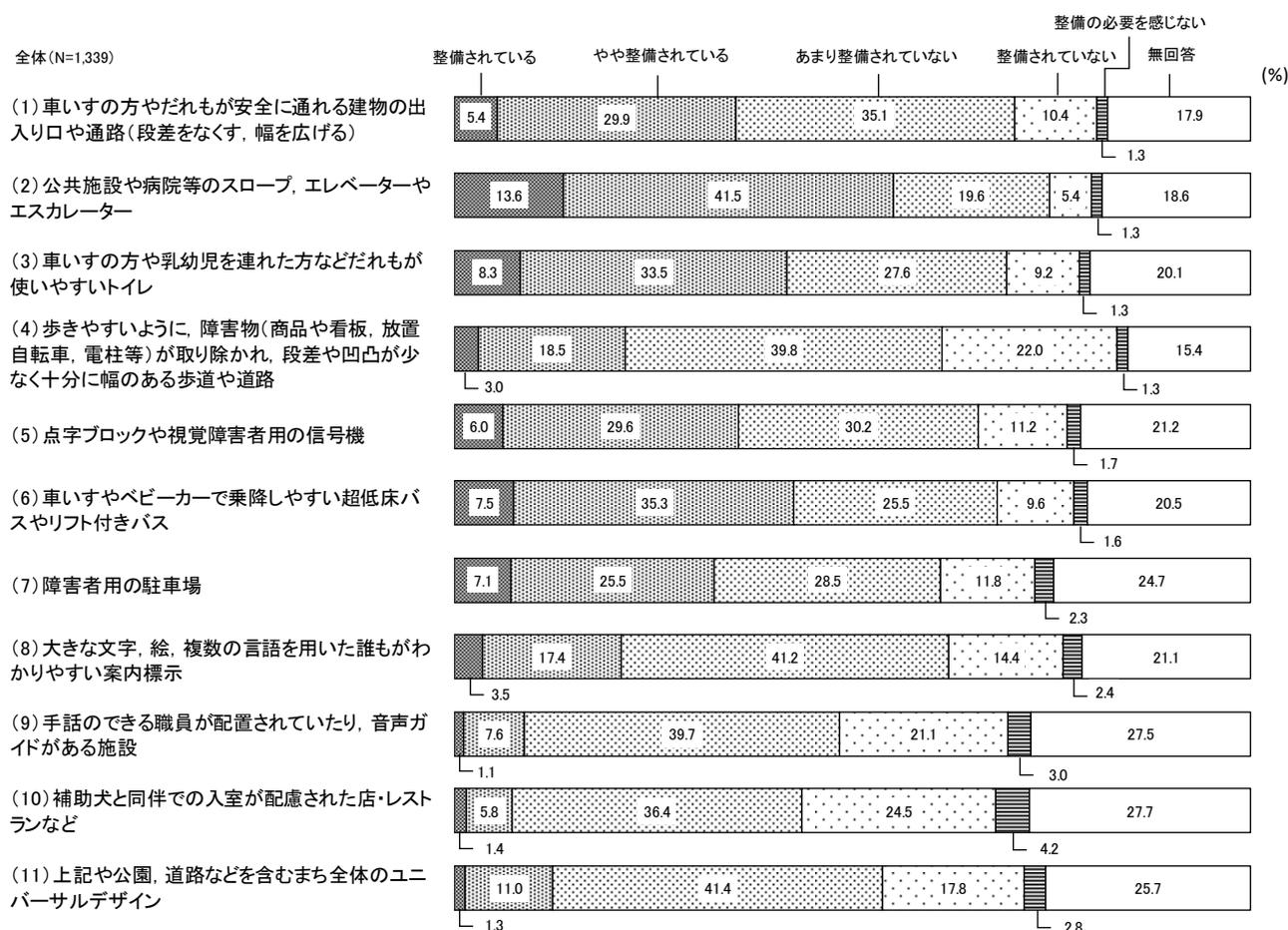
(1) バリアフリー化の状況（問 32）

問 32 現在、調布市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路などについて、障害のある人や妊婦、子どもづれ、高齢者、外国人等が利用しやすいように整備されていると思いますか。

(1) ~ (11) について、①と②のそれぞれ1つに○をつけてください。

- 『公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター』、『車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス』で、《整備されている》*がそれぞれ 55.1%、42.8%と高くなっている。
- 一方、『歩きやすいように、障害物（商品や看板、放置自転車、電柱等）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路』、『補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど』、『手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設』で、《整備されていない》*がそれぞれ 61.8%、60.9%、60.8%と高くなっている。

図表 3-57 バリアフリー化の状況（全体）



※ 《整備されている》: 「整備されている」と「やや整備されている」の合計
 《整備されていない》: 「あまり整備されていない」と「整備されていない」の合計

12 地域社会に対する考え方

(1) 地域で福祉サービスの利用に結びついておらず困っている人の有無（問 33）

問 33 あなたを含め, 地域において支援が必要であるにもかかわらず, 福祉サービスの利用に結びついていない人がいますか。(1つに○)

- 全体では, 福祉サービスに結びついていない人が「いる」と答えた割合は 4.3% である。
- 地域別にみると, 「いる」の割合が最も高いのは南部地域 (4.7%) である。

図表 3-58 地域で福祉サービスに結びついておらず困っている人の有無（全体, 地域別）

		(%)	いる	いない	な分 いから	無 回 答
全	体	(N=1,339)	4.3	10.3	76.5	8.9
地 域 別	東部地域	(n= 269)	3.0	12.3	76.2	8.6
	西部地域	(n= 355)	4.2	10.4	76.9	8.5
	南部地域	(n= 340)	4.7	9.4	79.1	6.8
	北部地域	(n= 261)	4.6	11.9	76.2	7.3

(2) 福祉サービスに結びついていない事例の具体的な内容 (問 33-1)

問 33-1 福祉サービスの利用に結びついていない人は、どのような人ですか。また、どのようなことでお困りですか。下の欄に具体的にご記入ください。

- 支援が必要であるにもかかわらず、福祉サービスに結びついていない人が「いる」と回答した人に、具体的な状況を自由記述形式でたずねたところ、全体で 44 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

(認知症)

- ・時々、道を認知症高齢者と思われる人が歩いていて、泣きそうな顔で「財布おとした」と、その老人が言っているのを自宅か家族に電話するように声をかけると、「あ、そうか…」と歩いて行ったことがあったが、大丈夫かと心配になったことを思い出した。この私を含めて、高齢者が急増中である。(女性, 65~69 歳)

(制度の狭間で支援が受けられない)

- ・家内です。20 数年来のリウマチ (慢性関節リウマチ) で手足が不自由ですが、何とか日常生活はできるために、支援が受けられません。歩行困難、フラツキ、長時間歩行困難、痛みがあるのに、外観上、異常が見られないということで、申請はムリといわれています。(男性, 年齢不明, 抜粋)

(手続きができない, わからない)

- ・福祉サービスを受けるための手続きが分からない人が居ます。特に 1 人住まいの方。(女性, 70~74 歳)

(居場所がない)

- ・高齢者の居場所の確保が必要。(道路や空地でブラブラ歩いている人を見る人が多い。)(男性, 70~74 歳)

(支援を受け入れない人)

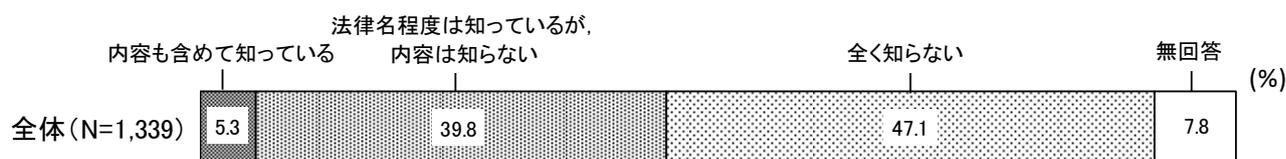
- ・本人自身が支援を必要としても気が向かない様です。日常生活も不便をしている様ですがあまり話さないの心配しています。(男性, 80~84 歳)
- ・御夫婦で生活して居ますが御主人が支援が必要ですが御主人が受入れず奥様も病気で大変お困りで毎日の生活が大変です (女性, 85~89 歳)

(3) 障害者差別解消法の認知度 (問 34)

問 34 平成 28 年 4 月から、「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」が施行されました。あなたは、「障害者差別解消法」について、どの程度知っていましたか。（1つに○）

- 障害者差別解消法の認知度は、「内容を含めて知っている」が 5.3%である一方、「法律名程度は知っているが、内容は知らない（39.8%）」と「全く知らない（47.1%）」を合わせた《知らない》は 86.9%である。

図表 3-59 障害者差別解消法の認知度（全体）

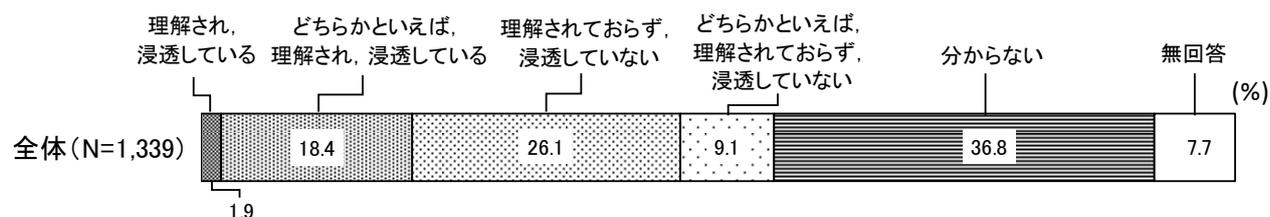


(4) 共生社会の実現状況の実感 (問 35)

問 35 「すべての人々が年齢や障害の有無によって分け隔てられることなく、互いの人格と個性を尊重しあいながら共生する社会（共生社会）を目指す」という考え方について、調布市では市民に理解され、浸透していると思いますか。（1つに○）

- 共生社会の実現状況の実感は、《浸透している》※は 20.3%、《浸透していない》※は 35.2%となっている。

図表 3-60 共生社会の実現状況の実感（全体）



※《浸透している》：「理解され、浸透している」と「どちらかといえば、理解され、浸透している」の合計
 《浸透していない》：「どちらかといえば、理解されておらず、浸透していない」と「理解されておらず、浸透していない」の合計

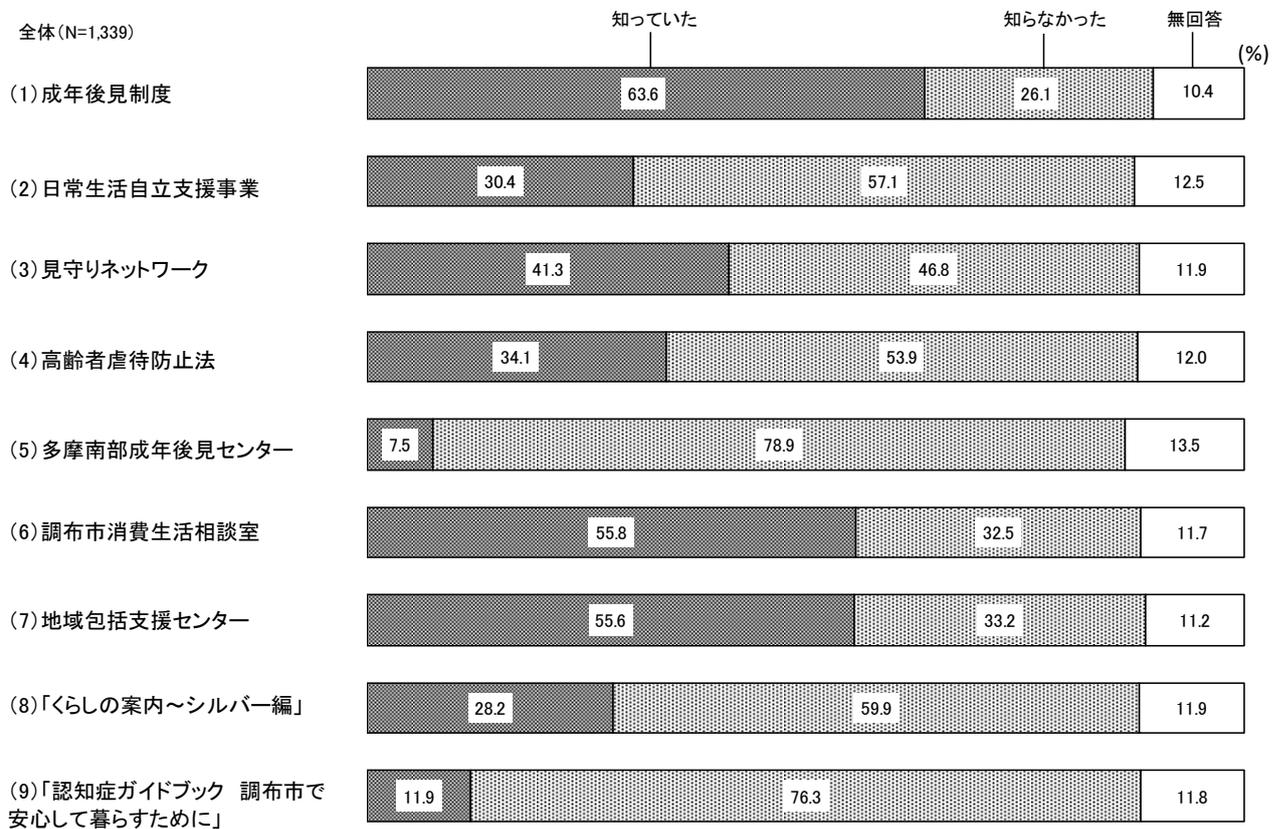
13 調布市の高齢者保健福祉施策

(1) 調布市の高齢者保健福祉施策の認知状況（問 36）

問 36 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口等として以下のようなものがありますが、あなたが知っていたものはありますか。
 (1)～(9)について、それぞれ1つに○をつけてください。

○ 調布市の高齢者保健福祉施策に関する制度や相談窓口の認知状況は、『成年後見制度』、『調布市消費生活相談室』、『地域包括支援センター』は「知っていた」割合が50%を超えて高くなっている。一方、『多摩南部成年後見センター』、『認知症ガイドブック 調布市で安心して暮らすために』は「知っていた」が1割にとどまっている。

図表 3-61 調布市の高齢者保健福祉施策の認知状況（全体）



(2) 今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（サービス）（問 37）

問 37 調布市の高齢者保健福祉施策（サービス）全般について、市が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。（5つまで○）

- 全体では、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合う地域づくりへの支援（44.7%）」が最も多く、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援（43.5%）」、「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど）（42.0%）」が続いている。
- 性・年代別にみると、男性・65～74歳では「働く機会や場所づくり（27.5%）」が全体と比べて12.3ポイント高くなっている。
- 地域別にみると、北部地域で「趣味や生きがいづくり、社会参加への支援」が35.6%であり、全体と比べて8.7ポイント高くなっている。

図表 3-62 今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（サービス）
（全体、性・年代別、地域別：複数回答（5つまで））

		趣味や生きがいづくり、社会参加への支援	働く機会や場所づくり	介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	洗濯・掃除などの家事（炊事・指導）	自立生活のための家事（炊事・指導）	ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど	介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス、紙おむつの給付など）	介護保険以外の保健福祉サービスの充実（配食サービス、紙おむつの給付など）	ボランティアや地域活動の充実	ひとり暮らしや支え合う地域づくりへの見守り	ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合う地域づくり	低所得者等への経済的支援	既存住宅の改修支援
全	体	(N=1,339)	26.9	15.2	43.5	9.1	42.0	26.0	9.3	44.7	22.0	10.8		
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	33.8	27.5	41.3	10.8	42.0	23.0	12.6	39.8	29.0	10.8		
		75～84歳 (n= 204)	27.0	13.7	48.0	8.8	41.7	21.6	10.8	42.2	22.5	13.7		
		85歳以上 (n= 35)	11.4	0.0	42.9	11.4	20.0	20.0	5.7	25.7	8.6	2.9		
	女性	65～74歳 (n= 325)	28.6	19.7	40.9	8.3	48.3	32.6	8.0	49.8	20.6	8.0		
		75～84歳 (n= 289)	22.1	7.3	48.1	8.0	39.4	28.4	8.7	48.1	20.8	8.3		
		85歳以上 (n= 104)	23.1	2.9	45.2	7.7	50.0	21.2	3.8	46.2	9.6	14.4		
地域別	東部地域 (n= 269)	23.4	14.1	41.6	8.6	45.4	27.9	8.9	44.2	21.9	8.9			
	西部地域 (n= 355)	23.7	15.2	44.5	8.7	45.1	25.9	9.6	43.1	20.8	11.5			
	南部地域 (n= 340)	27.9	16.8	45.6	9.4	39.4	27.1	9.1	47.6	22.9	9.7			
	北部地域 (n= 261)	35.6	15.7	43.3	10.7	42.9	24.1	9.6	45.6	23.0	11.5			

		給付住宅の供	ち賃住宅入居の仲立	交しや差などの公共施設・利用	備など入所施設の利用	うの不安保障制度の取組	介護者に対する支援	その他	分からない	無回答
全	体	(N=1,339)	15.9	5.4	25.4	41.6	16.6	30.8	1.2	3.8
性・年代別	男性	65～74歳 (n= 269)	21.9	7.4	26.4	37.5	18.2	25.7	0.7	4.1
		75～84歳 (n= 204)	14.7	6.9	21.6	42.2	15.2	33.8	2.5	2.9
		85歳以上 (n= 35)	8.6	5.7	20.0	40.0	20.0	20.0	2.9	11.4
	女性	65～74歳 (n= 325)	19.4	7.1	28.0	46.2	18.5	34.2	1.2	1.5
		75～84歳 (n= 289)	9.0	2.4	24.6	39.4	16.3	30.8	1.4	4.8
		85歳以上 (n= 104)	9.6	0.0	27.9	42.3	12.5	34.6	0.0	4.8
地域別	東部地域 (n= 269)	20.8	5.6	21.9	44.2	17.1	29.7	1.9	5.2	
	西部地域 (n= 355)	14.1	4.8	28.7	39.2	16.3	34.1	1.7	4.2	
	南部地域 (n= 340)	19.1	7.1	22.6	43.8	19.1	27.9	0.6	3.2	
	北部地域 (n= 261)	11.1	5.0	28.4	42.9	13.4	31.0	1.1	2.7	

14 市への要望（問 38）

問 38 高齢者がいきいきとした生活を送ることができる地域社会を実現するための取組などについて、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

○ 高齢者がいきいきとした生活を送ることができる地域社会を実現するための取組などについての意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、322 件の回答があった。以下に主なものを掲載する。

① 健康・医療について（37 件）

- ・まずは健康であること。健康寿命を延ばすために心や体を鍛える場所・機会を増やして欲しいです。（女性，65～69 歳）
- ・自分自身で健康について行動することが必要と思います。私は 62 歳から約 19 年間、スポーツクラブのプールで水中歩行（30 分，約 1 km）をしております。少しでも体を動かしていると転倒することもなく元気です（男性，80～84 歳）
- ・医療機関は、多いと思いますが、訪問医療を増やしてほしい。（男性，80～84 歳）
- ・いきいきとした生活の基礎は健康です。健康でさえあれば心がけ次第で人生を楽しむ事はできます（最低限の経済的裏付けは必要ですが）。そのためには医療（認知症を含めて）、介護（認知症含む）の充実が大切だと思います。（男性，75～79 歳）
- ・（シニア向け健康体操が）実施される場所が乗物を利用して行かなければならないようですと、中々参加する気になれません。住む地域によって健康格差が大きいと思っています。（女性，75～79 歳，抜粋）
- ・年金が少ないため、毎月の医療費が大変に成って来た。このままだと生活費がなくなりそうだ。（男性，70～74 歳）

② 市の福祉施策・サービスについて（36 件）

- ・調布市の福祉関係の人員の資質高上を願う。（男性，65～69 歳）
- ・予算上のこともあるだろうが、担当する人間の絶対数が不足している。改善を求む。（男性，85～89 歳）
- ・介護認定など受ける場合、急を要しているのになかなか、対応してもらえなく、調布市と三鷹市は対応が特に遅いと病院でも云ってます。23 区はとても早いとのこと、どうしてですか。（女性，75～79 歳）
- ・高齢者にとって今の施策では全く不足の状態と考えます。“いきいき”以前に基本的生活の確立を保障されるべき社会体制につながる市の福祉施策を考えなくてはいけない。（女性，70～74 歳）
- ・市があまりやると、お金もかかるし、それぞれの個人が自然に結びつくのがかえって無くなってしまいうような気がします。市は無駄使いをしない事。間に入る人が沢山のお金をもらってしまうような事がない様にしてください。（65～69 歳，女性，抜粋）

③ まち・環境について (33 件)

- ・生活道路がデコボコで高齢者、乳母車、車イス等の利用者はストレスを感じる。足元が不安な人（足が上らない人）は非常に歩きにくいと思う。予算の都合もあると思いますが、まずは生活圏の足元をしっかりともらいたい。（男性、64～69歳）
- ・日頃思っています事は高齢者が多くなってバス停で待っているのが立っているのがつらい方が多いので歩道が広くあいている所は一寸こしかける所を作っただけだと皆たすかると言っていっちゃいます。（女性、85～89歳、抜粋）
- ・高齢になると勘がにぶり少しの道路の段差にもつまずいてしまう。目も耳もおとろえて自分としては充分気をつけているつもりでも思わぬ所で大事になることが多々あったので公道や公民館などわずかな段差もなるべくつけないで欲しい。（女性、85～89歳）

④ 地域活動・社会参加について (25 件)

- ・シルバーだからと無理をしない何事にもでは、やる気を出せません。遅くはないチャレンジしてみましようの声掛け！！を。（女性、70～74歳）
- ・高齢者を保護、いたわりの対象と考えるだけでなく、知識・経験を社会的に活用させる方途を工夫してほしい。現役時代にりっぱに活躍したレベルの高い人が在住しているのですから。（男性、75～79歳）
- ・高齢者になっても少しでも役に立つ事ができれば仕事をしたい！（女性、70～74歳）
- ・高齢者に働く場を提供し、健康維持に役立てて欲しい。金額は少なくても良いので働く喜びを与え、社会の扶養者ではなく貢献者として扱えば元気を保つことができると思います。（男性、65～69歳）

⑤ 住まいや福祉施設について (24 件)

- ・11万円の年金で4万円の家賃はつらいです。（男性、65～69歳）
- ・高齢者施設の困った人がだれもが入れるように施設を要望します。有料の施設が多すぎる。高くて一般の者が入れるはずがない。（男性、65～69歳）
- ・老人ホームに入居致しましたので自宅が空屋になってますので心配です。近所も空屋ばかりです。（女性、85～89歳）
- ・70歳をすぎると賃貸住宅契約がむずかしいというより貸したがらない。しかし身体が不自由になってから自宅を出るのは大変。空家がふえる原因になると思う。（女性、70～74歳）
- ・高齢者が自分が生きて来た地域での生活をつづけていくことを望むことは当然であると考えていましたが、実際、自分が老々介護を行ってみて、自らも仕事と介護に疲れて、脳梗塞で倒れ、家族では無理であることを実感しました。第1団塊世代の高齢化のピークを向かえた現在、特養施設とスタッフの増量が緊急問題であると考えます。（女性、65～69歳）

⑥ 情報について (17 件)

- ・私はパソコンができません。公共のお知らせには、かならずTel問い合わせ（番

号) をのせてください。(女性, 70~74 歳)

- ・市報ちょうふで必要な事, 関心のある記事を読んでいるのでできるだけ, 取り組んでいる事を誌面に載せてください。(女性, 70~74 歳)
- ・市報ちょうふ等で, 「避難場所」「介護」の情報等順次特集として組んでいただくと理解しやすいかなと思います。宜しくお願い致します。(知らないこと多く, 驚きました。)(女性, 65~69 歳)
- ・市報が月 2 回発行されており, 市内全般の動きはわかるけど身近な町内会の動きがほとんどわからない。掲示板等が少なく, 地域センター内の行事も近くにないので, よくわからない。(男性, 70~74 歳, 抜粋)

⑦ 近所づきあいについて (13 件)

- ・マンション生活 20 年, 退職して 5 年, 近所づき合いをと思って, おすそ分け等をして, 逆って迷惑だったのかと覚えることがよくあります。災害時や高齢になった時のことを考えると不安になることがあり都市部のつき合いは本当に難しいと思います。(女性, 65~69 歳)

⑧ 将来の生活・暮らしについて (13 件)

- ・現在は二人揃ってなんとか生活しておりますが, 一人になったら考えが全々違ってくると覚えます。動けなくなった時は不安ですね。(女性, 75~79 歳)
- ・高齢者とひとくくりにはされてはいますが, 人格・個性・暮らし方等, 若き日と同じ様に老人も初心者です。先の短い人生を, どう締めくくるのか本人にとって, 大変な課題です。高齢になって, いきいきする方法は, 何なのでしょう。(女性, 75~79 歳, 抜粋)
- ・高齢でも活き活きをモットーにして来たつもりでも年にはかないません。老いは誰にも必ず来る。元気うちに終活を。(85~89 歳, 女性, 抜粋)

⑨ 自助努力について (12 件)

- ・介護する人がまだ身近にいないので具体的な考えはまだ実感していません。寝たきりにならないよう, 認知症にならないよう, 自分自身の意志の持ち方だと思います。運動をしたり, 頭を使ったり, 周りの人に迷惑をかけないですむように努力していく事だと思います。死ぬまで現役, 食事はちゃんと作っていきたいです。(女性, 70~74 歳)
- ・一人一人が自分から行動を起こし, 人の輪, 社会の輪に入って行く努力があれば, 自ずとまわりの人に助けられ, 自分が人を助ける立場になれる。市の福祉に頼る前に一人一人が自覚する必要がある。“福祉” が向かって来るのを待つばかりではダメ。(男性, 74~79 歳)

⑩ 居場所について (12 件)

- ・地域で高齢者が集まってランチやおしゃべりができる場所があるとよい。安価で, でも落ちついたサロンの感覚で, ひきこもり老人をなくすために。(女性, 75~79 歳)
- ・老人・幼児・ハンデを持つ弱者たちの共通の居場所が大小色んな形であるとよい。そこが事実上の救済の窓口になる様に。学校, 図書館などもその一環として, ポ

ランティアの力で、できれば常時駆込み窓口として機能するように。但し、人間のことだから、色々厄介なケースも生じ得る。力量のあるオーガナイザーの存在が必須。(女性, 75~79歳)

⑪ 生きがいについて (11件)

- ・やはり、趣味や生きがいづくりでしょうか。興味、好奇心でもいいのですが、そこから生まれる、いきいきとした生活、やわらかい感情、おだやかさは心の安定をになうもの。若い時のように自信をもって、歩いていきいただきたいと思います。キラキラした高齢者がいてもいいと思います。(女性, 65~69歳)

⑫ 介護について (9件)

- ・ヘルパーさんが将来足りなくなると思いますので、ヘルパーさんの給与水準を上げて、定着させたり、新規のヘルパーさんを増やしたりする方向を考えていくと良いと思います。(女性, 90~94歳)
- ・今後お世話になるかと思しますので介護の方のケアも大事かと。本人もつらいし家族も大変。どうか皆が苦しまないような生活ができると良いなと思います。(男性, 70~74歳)
- ・まだ、私自身は介護がいきませんが、いずれ、お世話になるのだと思いますが、知識がないので、これから学んでいかななくてはと思います。(女性, 70~74歳)

⑬ 相談について (8件)

- ・高齢者が抱える問題を個々に分別して相談するのは困難と考えますので、行政の方で高齢者何でも相談室のような形で一元化できれば風通しが良くなりませんか。(男性, 75~79歳)
- ・市役所のサービス制度が細かく分かれすぎて色々な所で相談するが、それが一ヶ所で集約されず個々の部所で終わってしまう。本当に困った時に解決できずあきらめてしまう。(男性, 75~79歳, 抜粋)

⑭ イベントについて (8件)

- ・敬老会の案内が毎年届きますが、魅力ある内容ではありません。高齢者に喜ばれる内容を検討してください。(女性, 75~79歳)
- ・高齢になると外出が億劫になりがちです。近くの公民館での歌の会、体操、お話し会等切っ掛けがつかめると良いと思います。(女性, 80~84歳)

⑮ 福祉意識について (7件)

- ・高齢者だけでなく弱者に対する姿勢、考え方マナーなど大人青少年全体に教育、知識が大切、必要です。(男性, 70~74歳)
- ・ますます高齢者がふえる社会の中で一人一人が高齢者を大切に愛をもって接する事ができる様、地域社会をつくっていったらと思います。(女性, 80~84歳)

⑯ 若者や次世代について (5件)

- ・昔の老人と比べ、今の老人に対する政策は充分過ぎる位行き届いていると思います。それに比べ、高い税金に苦しみながら一生懸命に子どもを教育し、生活している若い人達の存在を忘れてはいけないと思います。(女性, 75~79歳)

⑰ 生活支援について（3件）

- ・一人暮らしになった時炊事，洗濯，掃除等の市の支援が必要になる。（女性，75～79歳）

⑱ アンケートについて（17件）

- ・アンケートを取るだけでなく実行して欲しい。（男性，65～69歳）
- ・今回の調査は質問が多すぎる。出すのをやめようと思った。（男性，70～74歳）
- ・このアンケートを高齢者に依頼している割には文章が硬い。（女性，75～79歳，抜粋）

⑲ その他（32件）

- ・私は難聴で6級の障害者手帳をもっていますが，難聴者に対する支援の市の施策は殆んどなく，講演会，学習会には殆んど参加できませんし，電話対応も困難な現状です。施策をお願いします。（男性，年齢不明，抜粋）
- ・今の60歳代は若いです。高齢者として扱われたくありません。60歳代・70歳代への認識を変えることを希望します。年寄り扱いされると，「もう年だから」と思うようになり，いきいきとした気もちがそがれてしまいます。今の高齢者は80歳代からだと思います。よろしく！（女性，65～69歳）
- ・この先役所がどんな取組をしようとも，人間の情が昔とくらべて大分おちてきています。ようするに自分勝手の人がふえたという事です。役所がどんな取組をしていくのか，お手並拝見させていただきます。（男性，75～79歳）